



USER'S MANUAL

4ポート ブロードバンドルータ

BRL-04EZ

PLANEX COMMUNICATIONS INC.

USER'S MANUAL

4ポート ブロードバンドルータ

BRL-04EZ

本製品を安全にお使いいただくために

警告

本製品をご利用の際は、以下の注意点を必ずお守りください。これらの事項が守られない場合、感電、火災、故障などにより使用者の重傷または死亡につながるおそれがあります。

分解・改造・修理はダメ！

各部のネジを外したり、カバーを開けたりしないでください。また製品内部の部品を改造・交換しないでください。感電や火災につながるおそれがあります。



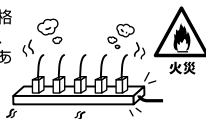
正しい電圧で使用して！

指定の電圧以外で使用すると誤動作や火災につながるおそれがあります。



タコ足配線・無理な配線はダメ！

コンセントや電源タップの定格を超えて電気製品を接続すると、発熱し火災につながる危険があります。



液体・異物はいれないで！

製品内部に液体や異物が入ると、ショートして火災が発生したり、誤動作したりする可能性があります。万一異物や液体が入ってしまった場合は、電源コードをコンセントから外して弊社サポートセンターまでご連絡ください。



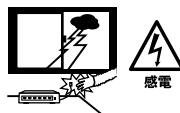
設置・保管場所をもう一度確認して！

以下の場所での本製品のご利用や保管は避けてください。これらの場所で設置・保管を行うと誤動作や感電、火災につながる危険があります。

- ・本製品が落下する可能性のある不安定な場所
- ・高温または多湿の場所（暖房器具の側も含む）
- ・急激に温度変化する可能性のある場所（結露のおそれがある所）
- ・静電気を帯びやすい場所（絨毯の上も含む）
- ・腐食性のガスが発生する場所

雷のときはさわらないで！

雷が発生している間は、製品各部およびケーブルにさわらないでください。感電するおそれがあります。



通気口をふさがないで！

内部に熱がこもり、誤動作や火災につながるおそれがあります。



電源コードをつけて移動しないで！

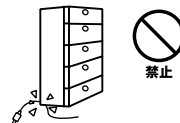
本製品を設置・移動する際は、必ず電源コードを前もって抜いておいてください。電源コードを入れたまま移動し、コードが傷つくと誤動作や火災につながるおそれがあります。



電源コードは傷つけないで！

火災・感電につながるおそれがありますので、電源やACアダプタのコードは絶対に加工したり傷つけたりしないでください。また以下の点を守ってコードを傷めないようにしてください。

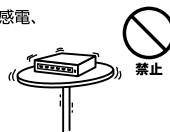
- ◇コードの上に物を載せない
- ◇熱源の側にコードを置かない
- ◇コードをかじる癖のあるペットは隔離する（かじった部分からショートし発火する危険があります）



◎おねがい

本製品のお手入れ

- ・本製品のお手入れは乾いた柔らかい布で行ってください。
- ・汚れがひどい場合は、水で薄めた中性洗剤に布を浸し、かたく絞って本製品を拭いてください。また最後に乾いた布で軽く拭いてください。
- ・台所用中性洗剤以外は使わないでください。シンナーやベンジン、ワックス、アルコールが入ったものは使用できません。



このマニュアルの構成

本マニュアルは4ポートブロードバンドルータ bRoad Lanner BRL-04EZの概要および使用方法について説明します。本マニュアルの構成は以下のようになっています。

必ずお読みください

第1章 はじめに

本製品の概要と各部の名称について説明します。必ずお読みください。

ご使用方法

第2章 ハードウェアの接続

本製品ハードウェアのADSL/ケーブルモデムおよびLANとの接続方法について説明します。必ずお読みください。

第3章 コンピュータの設定

本製品を使用したインターネットへのアクセスと本製品のWEBブラウザからの設定に必要なコンピュータの設定方法について説明します。

第4章 インターネット接続設定

本製品のインターネットへの接続設定について説明します。

第5章 詳細設定

本製品のDHCPサーバ機能やローカルサーバ機能等のより詳しい機能の設定の方法について説明します。

付録

付録A トラブルシューティング

「トラブルかな?」と思われる場合の対応方法について説明します。

付録B 工場出荷時設定

本製品の工場出荷時のデフォルト設定について説明します。

付録C 仕様

本製品の製品仕様です。

付録D WANポート接続状況・メッセージ一覧

本製品のWANポートの接続状況、メッセージについて説明します。

マニュアル内の表記について

本マニュアル内では製品の名称を本製品と表記します。区別が必要な場合は製品型番で表記します。

記載の会社名および製品名は各社の商標または登録商標です。

目次

本製品を安全にお使いいただくために	2
第1章 はじめに	
1.概要	7
2.特長	8
3.梱包内容の確認	9
4.各部の名称	10
5.対応機器	14
6.設定の初期化	15
第2章 ハードウェアの接続	
1.設置場所について	17
2.設置	18
3.WAN側ポートにADSL/ケーブルモデムを接続する	19
4.LAN側ポートへのコンピュータの接続	20
5.電源の接続	21
6.接続の確認	22
第3章 コンピュータの設定	
1.Windows 95/98/Me	23
2.Windows 2000	26
3.Windows XP	29
4.Macintosh	32
第4章 インターネット接続設定	
1.インターネット接続方法の確認	33
2.PPPoE接続の設定	35
3.DHCP接続の設定	41
4.固定IP接続の設定	45

第5章 詳細設定

1.概要	49
2.LANポートの設定	51
3.IPアドレス固定割り当て設定	53
4.PPPoE複数IPアドレスLAN型接続	54
5.システム設定	59
6.ローカルサーバ機能	62
7.バーチャルコンピュータ機能	65
8.ルーティング設定	67
9.フィルタリング設定	69
10.メール着信通知機能	73
11.Dynamic DNS設定	75
12.接続状況/接続/切断	77
13.セッションリスト	80
14.DHCP割り当て状況	81
15.設定の初期化	82
16.設定の保存/読み込み	83
17.ファームウェアアップデート	84
付属A トラブルシューティング	87
付属B 工場出荷時設定	91
付属C 仕様	93
付属D WANポート接続状況・メッセージ一覧	95
ユーザー登録について	100
弊社へのお問い合わせ	101

はじめに

1 概要

本製品は、ADSL およびCATV(ケーブルTV)接続を使ったインターネット接続に対応したブロードバンドルータです。NAT/IP マスカレード(NAPT)機能によって、1つのIPアドレスを複数のコンピュータで共有し、同時にインターネットにアクセスできます。本製品はWEBブラウザによって、簡単にセットアップできます。

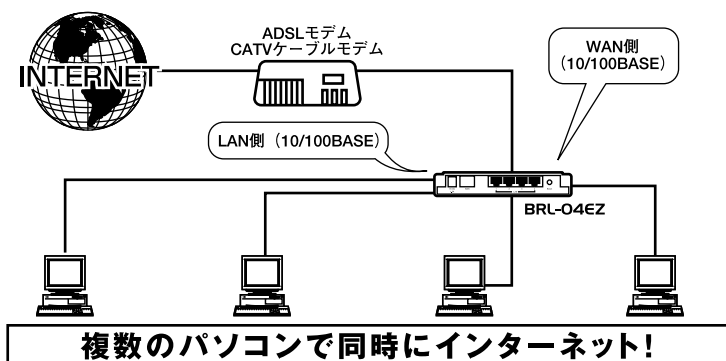


図1-1 bRoad Lanner接続図



注意

プロバイダによっては本製品のようなルータの使用や複数のコンピュータからのアクセスを制限している場合があります。プロバイダとのご契約内容についてご確認ください。

2 特長

ADSL、CATV接続等のWAN回線に対応、最大20Mbpsを超える快適ルーティングを提供します。

NAPT機能により1つのIPアドレスを複数のコンピュータで共有可能です。

WAN 側の接続方法は、通常接続のほかフレッツ・ADSL等のPPPoE・固定IP接続に対応しています。

複数のグローバルIPアドレスをLAN側接続できるUnnumbered接続に対応しています。

WAN/LAN全ポートAuto MDI/MDI-X対応で、ケーブルの種類を意識せず接続が可能です。

WAN側に10BASE-T/100BASE-TX自動認識RJ-45 STPポートを1ポート装備。

LAN側に100BASE TX/10BASE T自動認識対応4ポートスイッチングハブ内蔵。

LAN側ポートはDHCPサーバを搭載(最大253クライアント)

DNSリレー機能搭載、LANユーザはネットワーク設定を意識せずにアカウント切り替えができます。

ローカルサーバ機能によってTCP/UDP プロトコルのポート番号ごとに、インターネットからLAN側のコンピュータにアクセスさせるができます。

バーチャルコンピュータ機能によってLAN側のコンピュータ設定を変えることなくインターネットからアクセスさせることができます。

簡易ファイアウォール機能を装備、インターネットからの攻撃を防御します。

フィルタ機能を装備、LAN側コンピュータのインターネットへのアクセスを制限できます。

メール着信通知機能によりメールの着信をLEDでお知らせします。

WEB ブラウザから設定できます。

Dynamic DNS サービスに対応。

VPNパススルー機能を装備、ルータを介したVPNネットワークの構築が可能です。

スタティックルーティング機能によって柔軟なネットワーク構成を可能とします。

3 梱包内容の確認

1

はじめに

パッケージに以下の付属品が含まれていることを確かめてください。

BRL 04EZ本体

ACアダプタ

ツイストペアケーブル(ストレートタイプ:1m)1本

ショートコード1本

このユーザーズマニュアル

保証書(ユーザーズマニュアルの最後にあります)

不足品があるときは、販売店または弊社テクニカルサポートまでご連絡ください。

本体前面

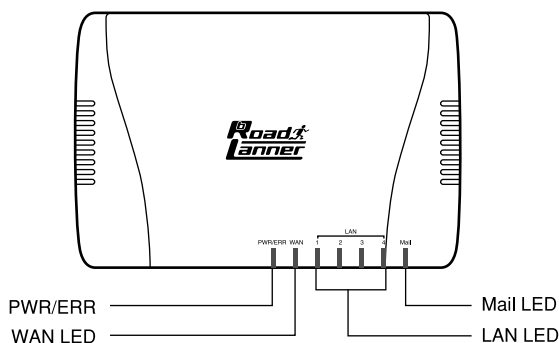


図1-2 BRL-04EZ本体上面

「PWR/ERR」

本製品に電源が供給されている場合に緑色に点灯します。本製品が正常に動作していない場合は赤色に点灯します。

「WAN LED」

WAN側ポートのリンクが確立しているときは緑色に点灯します。また、ポートがデータの送受信中には点滅します。

「LAN LED」

LAN側ポートのリンクが確立しているときは緑色に点灯します。また、ポートがデータの送受信中には点滅します。

「Mail LED」

メール着信通知機能を使用しているときに、新規メールがある場合に点滅します。また、電源投入直後に数度点滅します。

点滅回数	メール着信数
1回	5件未満
2回	5件以上10件未満
3回	10件以上20件未満
4回	20件以上

* メールアカウント情報の設定が間違っていたり、メールサーバからの情報取得に失敗していると、LEDは点灯した状態になります。次の情報取得で成功していれば、上記の動作に戻ります。

本体背面

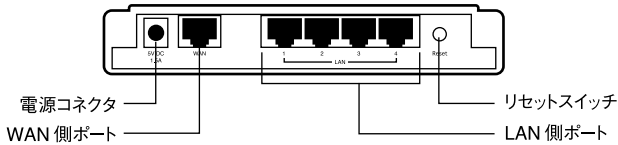


図1-3 BRL-04EZ本体背面

「WAN 側ポート」

本製品をADSLまたはケーブルモデムと接続するためのRJ 45 STPポートです。

「LAN 側ポート」

本製品にコンピュータを直接接続するためのRJ 45 STPポートです。

「リセットスイッチ」

本製品を再起動するときや、本製品の設定を工場出荷時の状態に戻すときに使います。

「電源コネクタ」

付属のACアダプタを接続するための電源コネクタです。

本体裏面

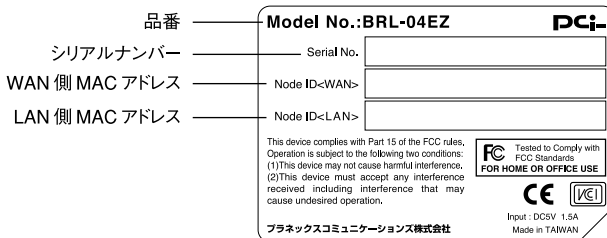


図1-4 BRL-04EZ本体裏面

「品番」

本製品の製品型番です。

「シリアル番号」

本製品のシリアルナンバーです。製品外箱に記載されているものと同じ番号です。ユーザ登録時に必要となります。また、製品故障時などにサポートを受けるときにも必要になります。

「LAN側MACアドレス」

本製品のLAN側ポートのMACアドレス(物理アドレス)です。

「WAN側MACアドレス」

本製品のWAN側ポートのMACアドレス(物理アドレス)です。プロバイダによってはADSL/ケーブルモデムに接続する機器のMACアドレスの申請が必要なことがあります。そのときはこのWAN側ポートのMACアドレスをプロバイダに申請してください。

コンピュータ機器

本製品は、以下のいずれかのコンピュータに対応しています

- Windows 95/98/Me、Windows 2000、Windows XPを搭載し、Ethernet(RJ 45)ポートを装備したコンピュータ
- TCP/IPが利用できるOS(Mac OS、各種UNIXなど)を搭載し、Ethernet(RJ 45)ポートを装備したコンピュータ

ネットワーク機器

本製品では、以下のネットワーク機器が必要となります。

- ツイストペアケーブル(本製品に接続するコンピュータの台数分)

ADSL/ケーブルモデム

本製品は、以下のADSL/ケーブルモデムに対応しています。

- RJ 45 (LAN)ポートを装備した外付ADSLモデム
- RJ 45 (LAN)ポートを装備した外付ケーブルモデム

6 設定の初期化

IPアドレスやパスワードを忘れてしまったときや、間違った設定をしてしまい設定画面にアクセスできなくなったときなどに設定の初期化が必要になることがあります。



注意

設定の初期化を行うと、LAN 側/WAN 側ポートの設定や、フィルタ設定等すべての設定が工場出荷時の状態になります。初期化を実行する前に、本当に初期化を行っても問題がないかを確認してください。また、必要に応じて設定情報を保存しておくことをおすすめします。
(設定情報の保存については、5章「16.設定の保存/読み込み」を参照してください)

1. 本製品の設定の初期化は、以下の手順で行ってください。
2. 本製品の電源が入っていることを確認してください。
3. 本製品背面のリセットスイッチを先のとがったペンなどで押します。
4. 約5秒ほどで、「Mail LED」が点滅しはじめたら、リセットスイッチを離します。
5. 「Mail LED」が数秒間不規則に点滅したあと、すべてのLEDが一瞬点滅します。再度「Mail LED」の点滅が終わると、本製品のすべての設定が初期化されます。

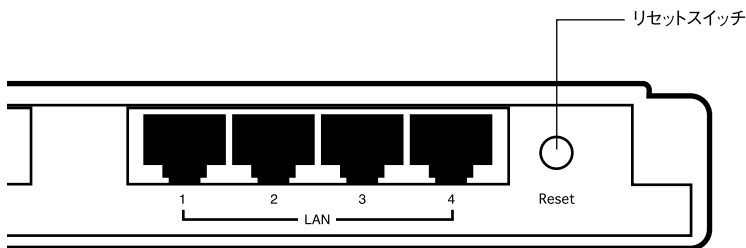


図1-5 リセットスイッチ

ハードウェアの接続

本

章では、本製品とADSL/ケーブルモデム、コンピュータとの接続手順について説明します。

1 設置場所について

本製品を設置するには必ず以下の点をお守りくださいますようお願いいたします。

湿気の多い場所に設置しないでください。

チリやほこりの多い場所には設置しないでください。

直射日光のあたる場所や温度の高い場所には設置しないでください。

内部に熱がこもる原因となりますので、周囲にはなるべく空間を空けてください。



注意

通風口にほこりなどがたまると内部に熱がこもる原因となります。定期的に点検を行い、ほこりがたまっているようでしたら掃除機等でほこりを取り除くようにしてください。

2 設置

本製品は、デスクトップ上などの平らな場所に設置して使ってください。

2

ハードウェアの接続

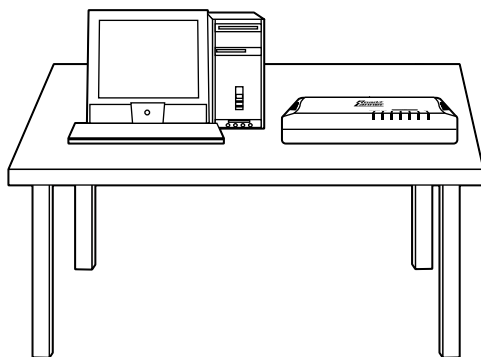


図2-1 設置図

3 WAN側ポートにADSL/ケーブルモデムを接続する

本製品のWANポートは結線のタイプを自動認識するAuto MDI/MDI-Xに対応しています。コンピュータを接続するツイストペアケーブルはストレートタイプ、クロスオーバータイプのどちらでも使用できます。

1. ADSL/ケーブルモデムの電源を切ってください。
2. 本製品付属のツイストペアケーブルで、本製品背面のWAN側ポートとADSL/ケーブルモデムのRJ-45ポートを接続します。
このとき、ケーブルのコネクタがポートの奥までしっかり挿さっているか確認してください。

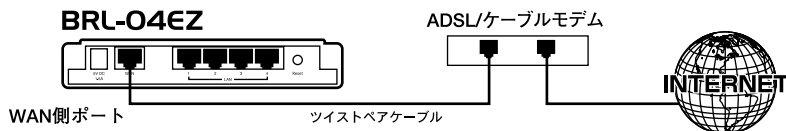


図2-2 ADSL/ケーブルモデムとの接続

4 LAN側ポートへのコンピュータの接続

1. ツイストペアケーブルの一端を本製品のLAN側ポートに接続します。本製品のLAN側ポートは結線のタイプを自動認識するAuto MDI/MDI Xに対応しています。コンピュータを接続するツイストペアケーブルはストレートタイプ、クロスオーバータイプのどちらでも使用できます。
2. ツイストペアケーブルのもう一端をコンピュータのRJ 45ポートに接続します。
このとき、ケーブルのコネクタがポートの奥までしっかり挿さっているか確認してください。

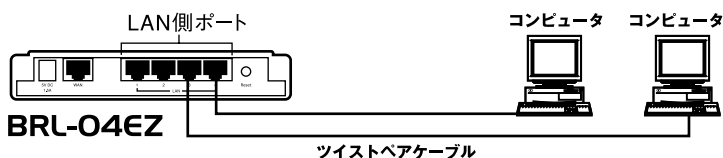


図2-3 コンピュータを接続

5 電源の接続

1. ADSL/ケーブルモデムの電源を入れます。
2. 付属のACアダプタを本製品の電源コネクタに接続します。
3. ACアダプタをAC100V コンセントに接続します。スペースの問題でACアダプタをコンセントに直接接続できないときは付属のショートコードをお使いください。
4. コンピュータの電源を入れてください。
5. 22ページの接続の確認に進んでください。

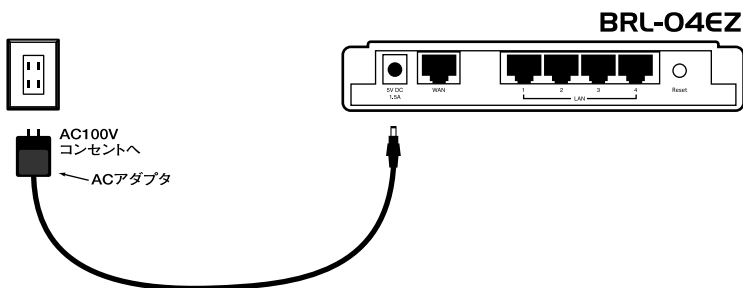


図2-4 電源の接続



注意

AC アダプタは必ず付属のものを使用してください。付属以外のACアダプタの使用は、製品の故障、誤動作等の原因となります。付属以外のACアダプタを使用した場合の故障は保証の範囲外となります。

6 接続の確認

2

ハードウェアの接続

これまでの接続を行い本製品の電源を入れると本製品のPWR/ERR、WAN、LAN Mailの各LEDが一時的に点滅した後に、ケーブルが繋がっているSTPポートのLEDが点灯します。これらのLEDが点灯しないときは以下の点についてお確かめください。

PWR/ERR LED

- ・本製品付属のACアダプタを使っていますか？
- ・ACアダプタが本製品背面の電源コネクタにしっかりと接続されていますか？
- ・ACアダプタはAC100Vコンセントにしっかりと接続されていますか？

WAN LED

- ・ツイストペアケーブルの両端はそれぞれ、本製品背面のWAN側ポートおよびADSL/ケーブルモデムのRJ 45ポートにしっかりと接続されていますか？
- ・ADSL/ケーブルモデムの電源は入っていますか？

LAN Link/Act LED

- ・ツイストペアケーブルの両端はそれぞれ、本製品背面のLAN側ポートおよびコンピュータのRJ 45ポートにしっかりと接続されていますか？
- ・コンピュータの電源は入っていますか？

コンピュータの設定

本

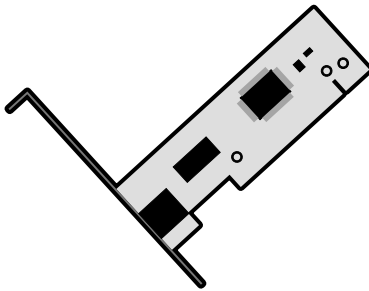
章では本製品を使ったインターネットへのアクセスとWEBブラウザから設定するために必要なコンピュータの設定手順について説明します。コンピュータの設定を開始する前に、第2章「ハードウェアの接続」を参照して本製品とADSL/ケーブルモデム、コンピュータの接続を完了させておいてください。

3

コンピュータの設定

1 Windows 95/98/Me

1. コンピュータにLAN アダプタがインストールされ、正常に認識されていることを確かめてください。LAN アダプタがインストールされていないときは、LAN アダプタのインストールを行ってください。



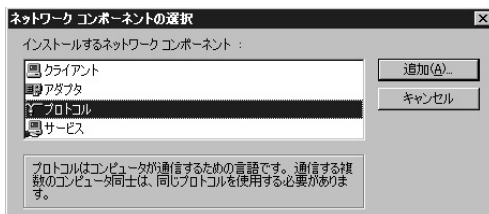
LANアダプタ
(例：FW-110TX)

図3-1 LAN アダプタ

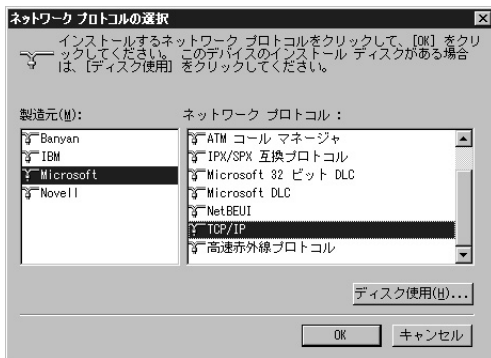
2. コンピュータにTCP/IP プロトコルがインストールされていることを確かめます。「スタート」メニューから「設定」「コントロールパネル」「ネットワーク」と選択します。「現在のネットワーク構成」の欄に「TCP/IP」が表示されているか確かめてください。インストールされているときは手順5に進んでください。



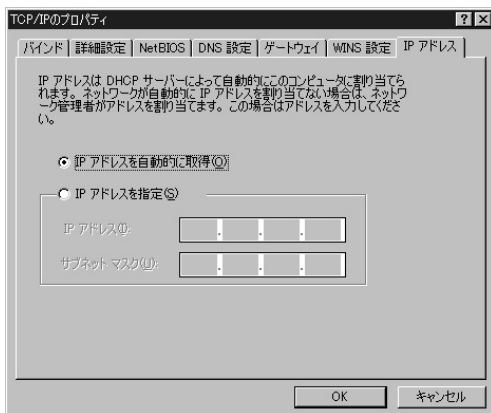
3. インストールされていないときは「追加」ボタンをクリックし、「インストールするネットワークコンポーネント」から「プロトコル」を選択して「追加」ボタンをクリックします。



4. ネットワークプロトコルの選択で「製造元」に「Microsoft 」を選択し、「ネットワークプロトコル」には「TCP/IP 」を選択して「OK 」ボタンをクリックします。ネットワークのプロパティの画面に戻ります。

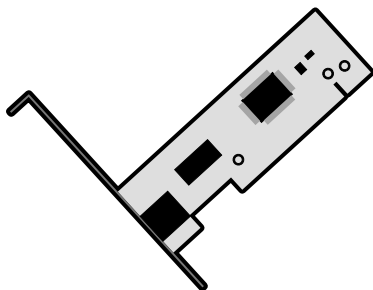


5. 「TCP/IP 」を選択し「プロパティ」ボタンをクリックします。「TCP/IP のプロパティ」画面が表示されるので、「IP アドレス」タブをクリックします。画面内の「IP アドレスを自動的に取得」オプションを選択し、コンピュータを再起動します。



2 Windows 2000

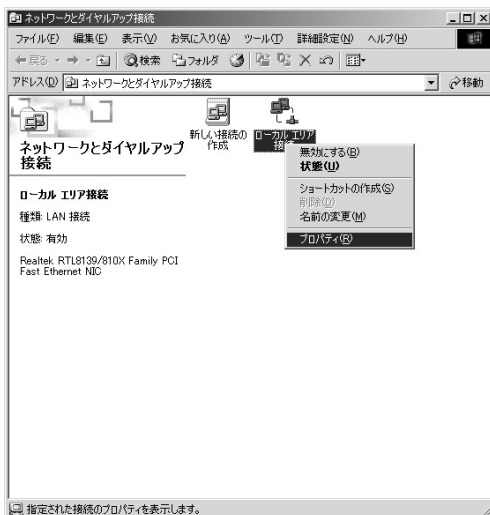
1. コンピュータにLANアダプタがインストールされ、正常に認識されていることを確かめてください。LAN アダプタがインストールされていないときは、LAN アダプタのインストールを行ってください。



LANアダプタ
(例：FW-110TX)

図3-1 LAN アダプタ

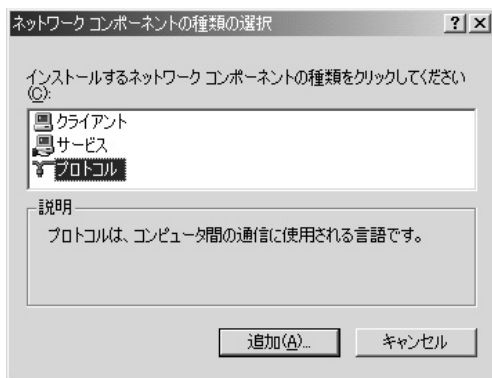
2. コンピュータにTCP/IP プロトコルがインストールされていることを確かめます。「スタート」メニューから「設定」「コントロールパネル」「ネットワークとダイヤルアップ接続」と選択します。
3. 「ローカルエリア接続」アイコンを右クリックし、表示されるメニューから「プロパティ」を選択します。



4. 「ローカルエリア接続のプロパティ」に「インターネットプロトコル (TCP/IP)」が表示されているか確かめてください。インストールされているときは手順7に進んでください。



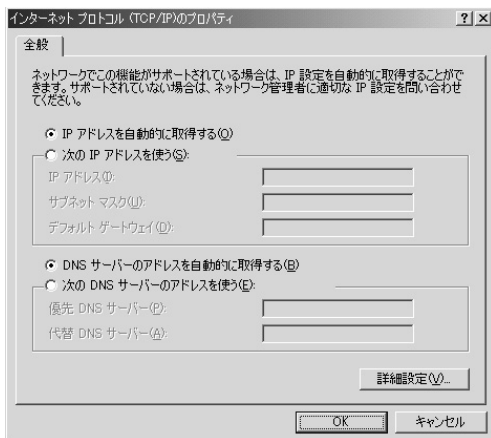
5. インストールされていないときは「インストール」ボタンをクリックし、「ネットワークコンポーネントの種類の選択」から「プロトコル」を選択して「追加」ボタンをクリックします。



6. 「ネットワークプロトコルの選択」で「インターネットプロトコル(TCP/IP)」を選択して「OK」ボタンをクリックします。ローカルエリア接続のプロパティの画面に戻ります。



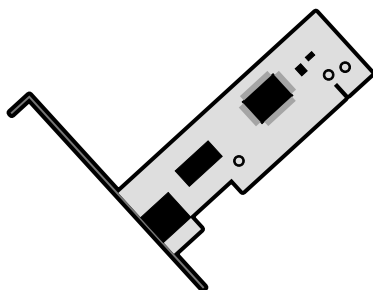
7. 「インターネットプロトコル(TCP/IP)」を選択し「プロパティ」ボタンをクリックします。「インターネットプロトコル(TCP/IP)のプロパティ」画面が表示されるので、「IP アドレスを自動的に取得する」と「DNS サーバーのアドレスを自動的に取得する」の2つのオプションを選択し「OK」ボタンをクリックします。



8. 「ローカルエリア接続のプロパティ」の画面に戻るのを閉じてください。

3 Windows XP

1. コンピュータにLAN アダプタがインストールされ、正常に認識されていることを確かめてください。LAN アダプタがインストールされていないときは、LANアダプタのインストールを行ってください。



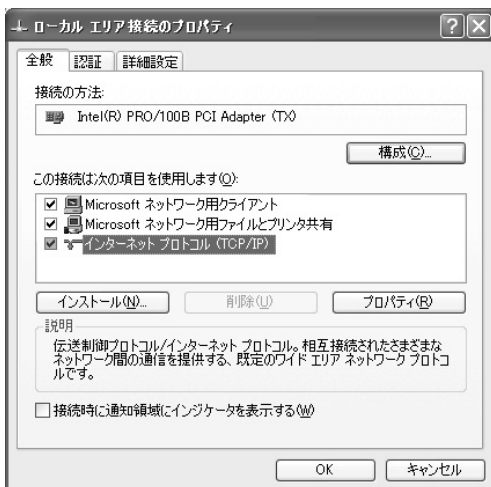
LANアダプタ
(例：FW-110TX)

図3-1 LAN アダプタ

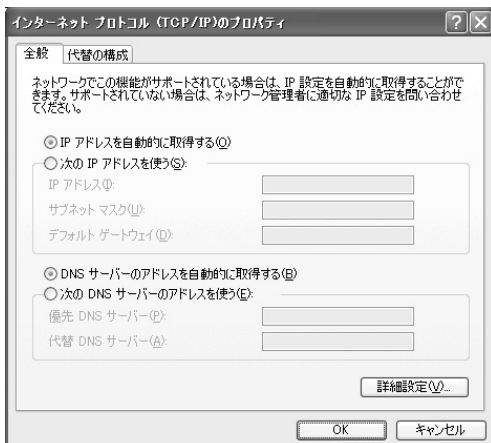
2. コンピュータでTCP/IP プロトコルが有効になっていることを確かめます。
「スタート」メニューを開き、「マイコンピュータ」を選択します。表示された「マイコンピュータ」ウィンドウの左側の「その他」の中にある「マイネットワーク」を右クリックし、メニューから「プロパティ」を選択します。「ネットワーク接続」ウィンドウが表示されます。



3. 「ローカルエリア接続」アイコンを右クリックして表示されるメニューから「プロパティ」を選択します。「ローカルエリア接続のプロパティ」ウィンドウが表示されます。「この接続は次の項目を使用します」の欄の「インターネットプロトコル(TCP/IP)」の左側のチェックボックスがチェックされているか確かめてください。チェックされていないときはチェックします。



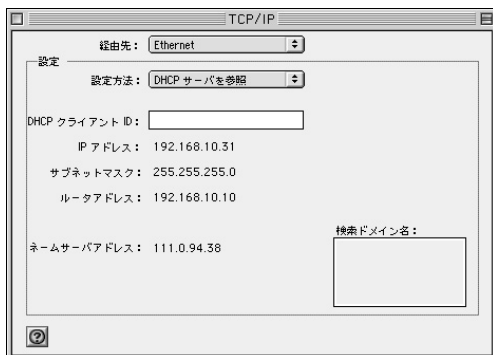
4. 「インターネットプロトコル(TCP/IP)」を選択し「プロパティ」ボタンをクリックします。「インターネットプロトコル(TCP/IP)のプロパティ」画面が表示されるので、「全般」タブをクリックします。



5. 画面内の「IP アドレスを自動的に取得する」と「DNS サーバのアドレスを自動的に取得する」のオプションを選択し、「OK」ボタンをクリックします。「ローカルエリア接続のプロパティ」ウィンドウに戻ったら、「閉じる」ボタンをクリックします。

4 Macintosh

1. アップルメニューから「コントロールパネル」「TCP/IP」と選択します。
2. TCP/IPの設定ウィンドウの「設定方法」を「DHCP サーバを参照」に設定します。



3. TCP/IPの設定ウィンドウを閉じて、Macintosh を再起動します。

インターネット接続設定

こ

の章では本製品のインターネットへの接続手順について説明します。ここでは、必要最小限の設定だけで、本製品を経由したインターネットへのアクセスを行えるようにします。インターネット接続設定を開始する前に、第2章「ハードウェアの接続」および第3章「コンピュータの設定」を済ませておいてください。本製品をより詳細に設定したいときは、第5章「詳細設定」を参照します。

1

インターネット接続方法の確認

本製品のインターネット接続の設定は、お客様が契約しているプロバイダとのサービス内容によって異なります。

次の中からお客様のプロバイダとの契約内容にあった接続方法を選択して、本製品の設定を行ってください。

PPPoE 接続

NTT東日本株式会社/NTT 西日本株式会社の「フレッツ・ADSL」および「Bフレッツ」や、東京めたりっく通信株式会社の「G One(旧Single)」サービスなどで採用されている、PPPoE プロトコルを使う接続方法です。接続にはユーザ名(アカウント名)とパスワードが必要です。

35ページの4章「2.PPPoE接続の設定」に進んでください。

4

インターネット
接続設定

DHCP接続

多くのケーブルテレビインターネット接続サービスや、ヤフー株式会社の「Yahoo!BB」などのサービスで採用されている、DHCP プロトコルを使ってIPアドレスが自動的に割り当てられる方法です。

41ページの4章「3.DHCP接続の設定」に進んでください。

固定IPアドレス接続

プロバイダから固定のIP アドレスが割り当てられるサービスでの接続方法です。

45ページの4章「4.固定IP 接続の設定」に進んでください。



注意

本製品をJ COM@NetHome またはJ COM・ZAQなどでご使用になるときは、各自プロバイダに対してのルータ使用登録が必要です。(2003年1月現在)

2 PPPoE接続の設定

注意

- ・WEBブラウザから本製品にアクセスするには、フレーム表示に対応したブラウザを使用する必要があります。Netscape6.0以降またはMicrosoft Internet Explorer5.0以降のご使用を推奨します。
- ・ブラウザでプロキシを使用する設定がされていると設定画面が表示されません。Internet Explorerでは「表示(ツール)」「インターネットオプション」「接続」「LANの設定」、Netscapeでは「編集」「設定」「詳細」にプロキシの設定項目があります。プロキシを使用しないように設定するか、もしくはプロキシの詳細設定画面で「次で始まるドメイン(アドレス)にはプロキシを使用しない」の欄に本製品のLAN 側ポートのIP アドレスを入力してください。
- ・プロバイダから配布されるPPPoE接続ソフトウェアをコンピュータにインストールする必要はありません。インストールしてある場合は、アンインストールするか、そのソフトの自動接続機能を無効にしてください。

1. コンピュータが起動したら、WEB ブラウザを起動します。
2. WEBブラウザのURLを入力する欄(Netscapeでは「場所」、Internet Explorerでは「アドレス」)に本製品のIPアドレス(工場出荷時値は「192.168.1.1」)を入力し、Enterキーを押します。
3. 設定画面にログインするためのログイン画面が表示されます。工場出荷時のパスワードは「password」です。パスワード欄に「password」と入力して、「OK」ボタンをクリックします。



4. 本製品の設定画面が表示されます。画面左側のメニューから「簡単インターネット設定」をクリックします。



5. WAN設定画面が表示されるので「接続方法」の「接続方法の選択」から「PPPoE接続」を選択してください。



6. PPPoE接続の設定画面が表示されます。次の項目を入力してください。

デバイス情報

通常は変更の必要はありません。これらの項目についてプロバイダから指定があるときだけ変更してください。

「WAN側ポートMACアドレス」

本製品の現在のWAN 側ポートのMAC アドレスが表示されます。プロバイダによってはインターネットに接続するPC のMAC アドレスの登録が必要ながあります。通常はMAC アドレスを変更する必要はありません。すでにPC のMAC アドレスを登録しているときは登録済みのMAC アドレスに変更することにより、プロバイダへの登録変更をすることなくご利用いただけます。その場合は、「変更する」にチェックを入れて登録してあるMACアドレスを入力します。

「ホスト名」

プロバイダから指定されたホスト名を入力します。指定がないときは変更の必要はありません。

「ドメイン名」

プロバイダから指定されたドメイン名を入力します。指定がないときは空欄のままかまいません。

PPPoE接続設定

「PPPoE接続アカウント」

本製品では最大で3個までのPPPoE接続の設定を保存する事が出来ます。必要に応じて設定に切り替えることが出来るようになっています。設定を切り替えるときは、切り替えたい設定番号のラジオボランをクリックしてください。

「接続ユーザ名」

プロバイダから指定されたPPPoE 接続のユーザ名(アカウント名)を入力します。



注意

大文字・小文字の違いに注意して入力してください。PPPoE接続ユーザ名はメールアドレス名などと異なる場合があります。

「接続パスワード」

プロバイダから指定されたPPPoE 接続のパスワードを入力します。
セキュリティのため、この欄に文字を入力しても“ * ”(アスタリスク)表示
されます。また、再起動後は入力したパスワードの長さに関わらず常に“ * ”
(アスタリスク)8個が表示されます。

「パスワードを確認」

パスワードを確認の為、プロバイダから指定されたPPPoE接続パスワード
を再度入力してください。

「サービス名」

通常は空欄ままでかまいません。プロバイダからサービス名の指定がある
ときのみ、指定されたサービス名を入力してください。

「MSS (Maximum Segment Size)」

PPPoE接続時のMSS (Maximum Segment Size)値を変更します。通常は
工場出荷時の設定「1414」を変更する必要はありません。不用意に変更する
と通信ができなくなったり、特定のサイトやアプリケーションが使用でき
なくなったり、パフォーマンスが著しく低下したりするので注意してくだ
さい。設定可能な範囲は536～1452です。MSS値に40を加えた値がMTU値
になります。

**注意**

NTT東日本株式会社/NTT西日本株式会社の「フレッツ・ADSL」「B フレッツ」のときは、必ず
「1414」以下の値でご使用ください。

「IPアドレス 固定設定する」

IPアドレスがプロバイダから自動的に割り当てられる場合はチェックボッ
クスのチェックを外して、IPアドレスを自動取得します。IPアドレスが固定
で割り当てられている場合はチェックボックスにチェックを入れて、IPア
ドレスを固定します。IPアドレスを固定した場合には以下の「IPアドレス」
も設定してください。

「PPPoE複数IPアドレスLAN型接続」では、通常は固定設定にします。詳し
くは、5章「4.PPPoE複数IPアドレスLAN型接続」を参照してください。
(工場出荷時の状態では自動取得に設定されています。)

「IPアドレス」

IPアドレスが固定で割り当てられている場合に、プロバイダから指定されたIPアドレスを入力します。(工場出荷時の状態では「0.0.0.0」に設定されています。)

例：153.16.10.40

* 複数のグローバルIP アドレスが割り当てられるサービスの場合、本製品のNAT用を使用するグローバルIPアドレスとなります。

プロバイダからルータ用に割り当てられたIPアドレスとは別のIPアドレスを入力して下さい。また、グローバルIPアドレスを節約するためにネットワークアドレスを入力することも可能です。

「DNSアドレス 固定設定する」

DNSサーバのIPアドレスをプロバイダから自動的に取得する場合はチェックボックスのチェックを外して、DNSサーバアドレス自動取得します。DNSサーバのIPアドレスが固定で指定されている場合はチェックボックスにチェックを入れて、DNSサーバアドレスを固定してください。DNSサーバアドレスを固定した場合は以下の「プライマリDNS」及び「セカンダリDNS」も設定してください。

(工場出荷時の状態では自動取得に設定されています。)

「プライマリDNS」

プライマリDNSサーバのIPアドレスがプロバイダから固定で指定されている場合は、プロバイダから指定されたプライマリDNSサーバのIPアドレスを入力します。

(工場出荷時の状態では「0.0.0.0」に設定されています。)

例：172.16.1.10

「セカンダリDNS」

セカンダリDNSサーバのIPアドレスがプロバイダから固定で指定されている場合は、プロバイダから指定されたプライマリDNSサーバのIPアドレスを入力します。プロバイダからセカンダリDNSサーバのIPアドレスが指定されていない場合は、入力する必要はありません。

(工場出荷時の状態では「0.0.0.0」に設定されています。)

例：172.16.1.11

「自動切断」

PPPoEでインターネットに接続中、通信が無い状態が続いた場合に自動的にPPPoE接続を切断するまでの時間を分単位で指定します。“0～999”の範囲で指定できます。自動切断したくない場合は、この欄に“0”を入力してください。「PPPoE複数IPアドレスLAN型接続」では、グローバルIPを割り当てたサーバーに対して外部からアクセスをする場合には自動切断はしない設定にします。

「セッションキープアライブ」

「有効にする」をチェックすると、本製品はPPPoEの接続状況を監視し、もし何らかの理由でPPPoE接続が切断された場合、自動的に再接続を行います。

7. 入力内容を確認し、間違いがなければ「設定」ボタンをクリックしてください。変更した設定内容が保存され本製品が再起動を開始します。再起動と同時に、PPPoE接続処理が行われるのでインターネット利用が可能となります。接続状況については、5章「12.接続状況/接続/切断」を参照してください。

**注意**

インターネットに正常にアクセス出来ない場合は、「付録A トラブルシューティング」を参照してください。PPPoE接続が正常に行われない場合は、改めて設定内容を確認してください。

3 DHCP接続の設定

注意

- ・WEB ブラウザから本製品にアクセスするには、フレーム表示に対応したブラウザを使用する必要があります。Netscape 6.0 以降またはMicrosoft Internet Explorer 5.0 以降のご使用を推奨します。
- ・ブラウザでプロキシを使用する設定がされていると設定画面が表示されません。Internet Explorer では「表示(ツール)」「インターネットオプション」「接続」「LAN の設定」、Netscape では「編集」「設定」「詳細」にプロキシの設定項目があります。プロキシを使用しないように設定するか、もしくはプロキシの詳細設定画面で「次で始まるドメイン(アドレス)」にはプロキシを使用しない」の欄に本製品のLAN側ポートのIPアドレスを入力してください。

1. コンピュータが起動したら、WEB ブラウザを起動します。
2. WEBブラウザのURLを入力する欄(Netscapeでは「場所」、Internet Explorerでは「アドレス」)に本製品のIPアドレス(工場出荷時値は「192.168.1.1」)を入力し、Enterキーを押します。
3. 設定画面にログインするためのログイン画面が表示されます。工場出荷時のパスワードは「password」です。パスワード欄に「password」と入力して、「OK」ボタンをクリックします。



4. 本製品の設定画面が表示されます。画面左側のメニューから「簡単インターネット設定」をクリックします。



5. WAN設定画面が表示されるので「接続方法」の「接続方法の選択」から「通常接続(IPアドレス自動取得)」を選択してください。



6. 「通常接続 (IPアドレス自動取得)」の設定画面が表示されます。次の項目を入力してください。

デバイス情報

通常は変更の必要はありません。これらの項目についてプロバイダから指定があるときだけ変更してください。

「WAN側ポートMACアドレス」

本製品の現在のWAN側ポートのMACアドレスが表示されます。プロバイダによってはインターネットに接続するPCのMACアドレスの登録が必要なことがあります。通常はMACアドレスを変更する必要はありません。すでにPCのMACアドレスを登録しているときは登録済みのMACアドレスに変更することにより、プロバイダへの登録変更をすることなくご利用いただけます。この場合は、「変更する」にチェックを入れて登録してあるMACアドレスを入力します。

「ホスト名」

プロバイダから指定されたホスト名を入力します。指定がないときは変更の必要はありません。

「ドメイン名」

プロバイダから指定されたドメイン名を入力します。指定がないときは空欄のままかまいません。

「WAN側ポートIP設定」

プロバイダより自動取得しますので、設定の必要はありません。
(IPを固定するには、4章「4.固定IP接続の設定」を参照してください。)

「DNSアドレス」

DNSサーバのIPアドレスをプロバイダから自動的に取得する場合は「自動取得」を選択します。

DNSサーバのIPアドレスが固定で指定されている場合は「固定設定」を選択して、DNSサーバアドレスを固定してください。DNSサーバアドレスを固定した場合は以下の「プライマリDNS」及び「セカンダリDNS」も設定してください。

(工場出荷時の状態では自動取得に設定されています。)

「プライマリDNS」

プライマリDNSサーバのIPアドレスがプロバイダから固定で指定されている場合は、プロバイダから指定されたプライマリDNSサーバのIPアドレスを入力します。

(工場出荷時の状態では「0.0.0.0」に設定されています。)

例：172.16.1.10

「セカンダリDNS」

セカンダリDNSサーバのIPアドレスがプロバイダから固定で指定されている場合は、プロバイダから指定されたプライマリDNSサーバのIPアドレスを入力します。プロバイダからセカンダリDNSサーバのIPアドレスが指定されていない場合は、入力する必要はありません。

(工場出荷時の状態では「0.0.0.0」に設定されています。)

例：172.16.1.11

**注意**

本製品をJ COM@NetHome でご使用になるときは、J COM@NetHome へのルータ使用の登録をすうえで、「ホスト名」欄にJ COM@NetHome から指定されたコンピュータ名を設定してください。(2003年1月現在)

7. 入力内容を確認し、間違いがなければ「設定」ボタンをクリックしてください。変更した設定内容が保存され本製品が再起動を開始します。再起動と同時に、通常接続処理が行われるのでインターネット利用が可能となります。接続状況については、5章「12.接続状況/接続/切断」を参照してください。

**注意**

インターネットに正常にアクセス出来ない場合は、「付録A トラブルシューティング」を参照してください。通常接続が正常に行われない場合は、改めて設定内容を確認してください。

4 固定IP接続の設定

注意

- ・WEBブラウザから本製品にアクセスするには、フレーム表示に対応したブラウザを使用する必要があります。Netscape 6.0以降またはMicrosoft Internet Explorer 5.0以降のご使用を推奨します。
- ・ブラウザでプロキシを使用する設定がされていると設定画面が表示されません。Internet Explorerでは「表示(ツール)」「インターネットオプション」「接続」「LANの設定」、Netscapeでは「編集」「設定」「詳細」にプロキシの設定項目があります。プロキシを使用しないように設定するか、もしくはプロキシの詳細設定画面で「次で始まるドメイン(アドレス)にはプロキシを使用しない」の欄に本製品のLAN側ポートのIPアドレスを入力してください。

1. コンピュータが起動したら、WEBブラウザを起動します。
2. WEBブラウザのURLを入力する欄(Netscapeでは「場所」、Internet Explorerでは「アドレス」)に本製品のIPアドレス(工場出荷時値は「192.168.1.1」)を入力し、Enterキーを押します。
3. 設定画面にログインするためのログイン画面が表示されます。工場出荷時のパスワードは「password」です。パスワード欄に「password」と入力して、「OK」ボタンをクリックします。



4. 本製品の設定画面が表示されます。画面左側のメニューから「簡単インターネット設定」をクリックします。



5. WAN設定画面が表示されるので「接続方法」の「接続方法の選択」から「通常接続(IPアドレス固定設定)」を選択してください。



6. 「通常接続 (IPアドレス固定設定)」の設定画面が表示されます。次の項目を入力してください。

デバイス情報

通常は変更の必要はありません。これらの項目についてプロバイダから指定があるときだけ変更してください。

「WAN側ポートMACアドレス」

本製品の現在のWAN 側ポートのMACアドレスが表示されます。プロバイダによってはインターネットに接続するPC のMAC アドレスの登録が必要ことがあります。通常はMAC アドレスを変更する必要はありません。すでにPCのMACアドレスを登録しているときは登録済みのMACアドレスに変更することにより、プロバイダへの登録変更をすることなくご利用いただけます。この場合は、「変更する」にチェックを入れて登録してあるMACアドレスを入力します。

「ホスト名」

プロバイダから指定されたホスト名を入力します。指定がないときは変更の必要はありません。

「ドメイン名」

プロバイダから指定されたドメイン名を入力します。指定がないときは空欄のままかまいません。

WAN側ポートIP設定

「IPアドレス」

プロバイダから指定されたIP アドレスを入力します。

「サブネットマスク」

通常、変更の必要はありません。

複数のグローバルIPが割り当てられるサービスをご利用の場合は、プロバイダから指定されたサブネットマスクを入力します。

「ゲートウェイ」

プロバイダから指定されたゲートウェイアドレスを入力します。

DNSアドレス

「プライマリDNS」「セカンダリDNS」

プロバイダから指定されたDNS サーバアドレスを入力します。DNSが2つある場合は、「セカンダリDNS」にも入力します。

7. 入力内容を確認し、間違いがなければ「設定」ボタンをクリックしてください。変更した設定内容が保存され本製品が再起動を開始します。再起動と同時に、通常接続処理が行われるのでインターネット利用が可能となります。接続状況については、5章「12.接続状況/接続/切断」を参照して確認してください。

4

インターネット接続設定

詳細設定

こ

ここでは、WEBブラウザを使用して本製品の各機能の詳細な設定を行う手順を説明します。



注意

- ・WEBブラウザから本製品にアクセスするには、フレーム表示に対応したブラウザをご利用になる必要があります。Netscape 6.0以降またはMicrosoft Internet Explorer 5.0以降のご利用を推奨します。
- ・ブラウザでプロキシを使う設定になっていると設定画面が表示されません。Internet Explorerでは「表示(ツール)」、「インターネットオプション」、「接続」、「LAN の設定」、Netscapeでは「編集」、「設定」、「詳細」にプロキシの設定項目があります。プロキシを使わない設定にするか、もしくはプロキシの詳細設定画面で「次で始まるドメイン(アドレス)」にはプロキシを使用しない」の欄に本製品のLAN側ポートのIPアドレスを入力します。

5

詳細設定

1

概要

1. 本製品の設定画面には以下の手順でアクセスしてください。

2. コンピュータが起動したら、WEB ブラウザを起動します。

WEBブラウザのURL を入力する欄(Netscapeでは「場所」、Internet Explorerでは「アドレス」)に本製品のLAN側ポートのIPアドレスを入力し、Enterキーを押します。工場出荷時や本製品の初期化後のLAN側ポートのIPアドレスは「192.168.1.1」です。

3. 設定画面にログインするためのパスワード入力画面が表示されます。パスワード欄にパスワードを入力して、「OK」ボタンをクリックします。工場出荷時や本製品の初期化後のパスワードは「password」です。



4. 本製品の設定画面が表示されます。



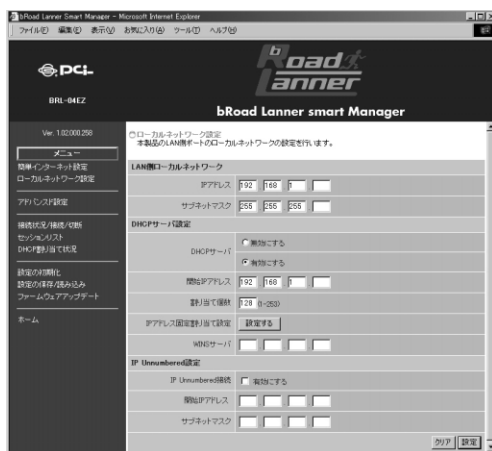
5

詳細設定

2 LANポートの設定

本製品のLANポートのIPアドレス設定とDHCPサーバ機能の設定を行います。

LANポートを設定するには、画面左側のメインメニューから「ローカルネットワーク設定」をクリックします。



「IPアドレス」

LAN側ポートに設定するIPアドレスを入力します。工場出荷時では「192.168.1.1」に設定されています。

「サブネットマスク」

LAN側ポートのサブネットマスクです。工場出荷時では「255.255.255.0」に設定されています。

通常、この設定を変更するはありません。変更する場合は、各種ネットワーク設定について十分ご参照の上、実施するようにしてください。

「DHCPサーバ」

DHCPサーバ機能を使うと、LAN側のコンピュータに自動でIPアドレスが割り当てられます。これにより、LAN側ネットワークのコンピュータにIPアドレスを手動で設定する必要がなくなります。

DHCPサーバ機能を使うときは「有効にする」をチェックします。DHCPサーバ機能を使わないときは「有効にする」チェックを外します。

「開始IPアドレス」

DHCPサーバ機能によって、割り当てるIPアドレス範囲の開始アドレスを設定します。「.(ドット)」で区切られた4つの数字の内の4つ目を入力します。例えば「192.168.1.200」を設定するときは「200」を入力します。

「割り当て個数」

DHCPサーバ機能によって、割り当てるIPアドレス範囲を設定します。

「IPアドレス固定割り当て設定」

本製品のDHCPサーバからLAN側の特定のコンピュータに対して、常に固定のIPアドレスを割り当てることができます。詳細は5章「3.IPアドレス固定割り当て設定」を参照してください。

「WINSサーバアドレス」

WINSサーバを利用している場合には、WINSサーバのIPを入力してください。通常は必要ありません。

「IP Unnumbered設定」

複数のグローバルIPアドレスが割り当てられるサービスをご利用の場合、プロバイダから割り当てられた複数のグローバルIPアドレスを持つパソコンを、本製品のLAN側ポートに接続可能になります。5章「4.PPPoE複数IPアドレスLAN型接続」を参照してください。

入力内容を確認し、間違いがなければ「設定」ボタンをクリックしてください。



注意

- 1.DHCPサーバで割り当てるIPアドレス範囲には本製品のLAN側ポートのIPアドレスが含まれないように設定してください。
- 2.LAN側のIPアドレスを変更した場合は、本製品にアクセスしているコンピュータのIPアドレスの設定をなおしてください。IPアドレスを自動で取得している場合には、IPアドレスを取得しなおしてください。
- 3.DHCPサーバ機能を使用しないときは、LAN側ネットワーク上コンピュータのIPアドレスを手動で設定してください。未設定のままだと、ネットワークでの通信ができなくなります。

3 IPアドレス固定割り当て設定

本製品のDHCPサーバ機能にはLAN側の特定のコンピュータに対して常に固定IPアドレスを割り当てることができます。これにより、パーチャルコンピュータに設定するコンピュータなどに対して継続して同一のIPを割り当てることができます。最大登録数は32件です。



5

詳細設定

「IPアドレス」

IPアドレスは「.」(ドット)で区切られた4つの数字の内の最後の1つを入力します。例えば「192.168.1.200」を設定するときは「200」を入力します。

「MACアドレス」

コンピュータのMACアドレスを入力します。

MACアドレスは16進数(0 9、a f) 12桁で入力してください。

(例：0090cc11aa22)

入力内容を確認し、間違いがなければ「設定」ボタンをクリックしてください。

「固定IP割り当てリスト」にエントリが追加されます。

「固定IP割り当てリスト」

上記で行った固定IP割り当て設定が一覧表示されます。登録済みエントリの設定を変更するには、一度削除した上で、再度登録を行ってください。

すべてのエントリを削除したい場合は「すべての固定IP割り当てを削除」ボタンを押します。個別にエントリを削除したい場合には、リストボックスから削除したいエントリの番号を指定して、「次の固定IP割り当てを削除」ボタンを押します。

設定が終了したら「戻る」をクリックしてLANポートの設定に戻ります。

4 PPPoE複数IPアドレスLAN型接続

[PPPoE複数IPアドレスLAN型接続]とは、PPPoEを使ったインターネット接続において複数の固定グローバルIPアドレスが利用可能なサービスを指します。

本製品の「PPPoE複数IPアドレスLAN型接続」機能を利用すると、プロバイダから割り当てられた複数のグローバルIPアドレスを持つパソコンを、本製品のLAN側ポートに接続可能になります。さらに、プライベートIPアドレスを持つホスト(パソコン)も接続することができます。

この際、本製品のLAN側ポートはグローバルIPアドレスとプライベートIPアドレスをそれぞれ1個、合計2つのIPアドレスを保持します。また、WAN側ポートにはIPアドレスは割り当てられておらず、Unnumberedとなります。

複数グローバルIPアドレスサービスの利点

通常のPPPoEインターネット接続サービスではIPアドレスが1個しか割り当てられません。また、PPPoEでプロバイダに接続した際に空いているIPアドレスが割り当てられますので、接続するごとに毎回違うIPアドレスが割り当てられます。

これに対し、グローバルIPアドレスが固定的に割り当てられていると、常に同じグローバルIPアドレスでインターネットからアクセスできますので、サーバ公開には必須のサービスです。

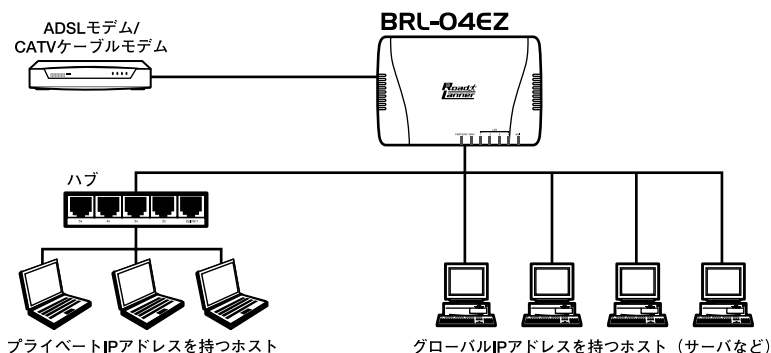


図5-1 PPPoE複数IPアドレスLAN型接続

PPPoE複数IPアドレスLAN型接続設定

本製品のPPPoE複数IPアドレスLAN型接続機能の設定を行います。
PPPoE複数IPアドレスLAN型接続機能を有効にするには、WEB設定画面左側のメインメニューから「ローカルネットワーク設定」をクリックします。

「IP Unnumbered接続」を有効にする

PPPoE複数IPアドレスLAN型接続機能を利用する場合、「有効にする」にチェック入れて以下の項目を設定します。

「開始IPアドレス」

本製品LAN側ポートに設定するグローバルIPアドレスを入力します。
ここに入力するアドレスがLAN側からみた本製品のグローバルIPアドレスになります。LAN側のグローバルIPアドレスの機器のゲートウェイアドレスがここで設定したIPアドレスになります。通常、プロバイダからルータ用に指定されたIPアドレスを入力して下さい。プロバイダから指定がない場合は、割り当てられたグローバルIPアドレス範囲の2番目のIPアドレスを使用して下さい。4章「2.PPPoE接続の設定」で設定したルータのIPアドレス(NAT用)とは異なるIPアドレスで設定して下さい。

「サブネットマスク」

プロバイダより指定されたサブネットマスクを入力します。

設定を変更した場合は「設定」ボタンをクリックしてください。変更した設定内容が保存され本製品が再起動を開始します。(再起動には約20秒かかります。)



注意

- ・IP Unnumbered機能を有効にすると、グローバルIP設定したコンピュータに対してセキュリティが無効な状態になります。予め対象となるコンピュータ本体のセキュリティ設定を十分に行った上でご利用になるか、必要時以外はこの機能を無効にしておくことを推奨します。
- ・LAN側ローカルネットワークのIPアドレスにグローバルアドレスを設定すると正常に動作しません。
- ・本マニュアルでは、PPPoE採用ADSLインターネット接続で複数のIPアドレスを提供するサービスを、「PPPoE複数IPアドレスLAN型接続サービス」としてあります。その他のサービスでは機能しない場合がありますのでご注意ください。
- ・本製品のPPPoE複数IPアドレスLAN型接続機能では、DMZネットワーク側からLAN側プライベートネットワークへの通信は常に遮断された状態になっています。

IPアドレスの割り当て方法

プロバイダから複数のグローバルIPアドレスが割り当てられる場合、割り当てられる連続したグローバルIPアドレス空間のうち、最初(ネットワークアドレス)と最後(ブロードキャストアドレス)は、システムで予約されておりホスト(コンピュータ)には使用できません。また、本製品のようなルータに対するIPアドレスも必要になります。従って、お客様のホスト(コンピュータサーバ)で利用可能なIPアドレスは、(プロバイダから割り当てられたアドレス数 - 3)になります。(プロバイダから8個のグローバルIPアドレスが割り当てられている場合は5個が利用可能)

例：プロバイダから153.16.10.40～153.16.10.47(153.16.10.40/29)の8個のグローバルIPアドレスが割り当てられた場合

- 153.16.10.40 ネットワークアドレス(使用不可・またはNAT用IP)
- 153.16.10.41 ルータ用(例：本製品LAN側ポート)
- 153.16.10.42 お客様ホスト用(例：プライマリDNSサーバ)
- 153.16.10.43 お客様ホスト用(例：WWWサーバ)
- 153.16.10.44 お客様ホスト用(例：メールサーバ)
- 153.16.10.45 お客様ホスト用(例：FTPサーバ)
- 153.16.10.46 お客様ホスト用(例：その他サーバ)
- 153.16.10.47 ブロードキャストアドレス(使用不可)



注意

一般的にルータ(本製品LAN側)に設定するグローバルIPアドレスは、ネットワークアドレスの次のアドレスにします。プロバイダから指定されていない場合は、特に理由がない限りこのアドレスで設定してください。

グローバルIPアドレスネットワーク					
区分	ネットワークアドレス	デフォルトゲートウェイ	各ホストのアドレス	ブロードキャストアドレス	サブネットマスク
IPアドレス	割り当てられたIPアドレス範囲の最初のグローバルIPアドレス	割り当てられたIPアドレス範囲の2番目のグローバルIPアドレス	ユーザ使用可能なグローバルIPアドレス	割り当てられたIPアドレス範囲の最後のグローバルIPアドレス	プロバイダから指定されたサブネットマスク
例: 153.16.10.40～153.16.10.45 の6個のグローバルIPアドレスが割り当てられている場合	153.16.10.40	153.16.10.41	153.16.10.42～153.16.10.44	153.16.10.45	255.255.255.240

表5-1 グローバルIPアドレス

各コンピュータの設定

本製品の複数グローバルIPアドレスLAN型接続能を利用する場合、グローバルIPを割り当てるホスト(パソコンやサーバ)のネットワーク設定は次のようになります。

グローバルIPを割り当てるホスト(パソコンやサーバ)

「IPアドレス」

プロバイダから割り当てられたIPアドレス空間のうち、利用可能なグローバルIPアドレス(本製品LAN側ポートに設定するルータアドレスを除く)

例：153.16.10.41

「サブネットマスク」

プロバイダから指定されたサブネットマスク

例：255.255.255.240

「デフォルトゲートウェイ」

割り当てられたIPアドレス範囲の2番目のグローバルIPアドレス

(= 「IP Unnumbered接続」の「開始IPアドレス」に設定したグローバルIPアドレス)

例：153.16.10.41

プライベートIPアドレスのコンピュータ（本製品のDHCPサーバ機能を利用しない場合）

「IPアドレス」

任意のIPアドレス

例：192.168.1.100

「サブネットマスク」

任意のサブネットマスク

例：255.255.255.0

「デフォルトゲートウェイ」

本製品LAN側ポートに設定したプライベートIPアドレス

例：192.168.1.1

「DNSサーバ」

プロバイダから指定されているDNSサーバアドレス

例：172.16.1.10

プライベートIPアドレスのコンピュータ（本製品のDHCPサーバ機能を利用する場合）

各パソコンのDHCPクライアント機能を有効（IPアドレスを自動的に取得する）にするだけで設定完了です。

プライベートIPアドレスネットワーク					
区分	ネットワークアドレス	デフォルトゲートウェイ	各ホストのアドレス	ブロードキャストアドレス	サブネットマスク
IPアドレス	任意のネットワークアドレス	任意のデフォルトゲートウェイ	任意	任意のブロードキャストアドレス	任意のサブネットマスク
例： 19.168.1.0/2.4 プライベートアドレス空間を使用する場合	192.168.1.0	192.168.1.1	192.168.1.2～ 192.168.1.254	192.168.1.255	255.255.255.0

表5-2 プライベートIPアドレス

5 システム設定

本製品のWEB設定画面へのログインに関する設定を行います。

ここでは、本製品のファームウェアバージョンの確認や管理者設定が行えます。管理者設定は本製品にアクセスする為の条件などを設定します。不用意な変更を行うと本製品にアクセスできなくなる場合がありますので、十分注意して作業を行ってください。

システム設定を行うには、画面左側のメインメニューから「アドバンスド設定」をクリックします。



「ファームウェアバージョン」

本製品のファームウェアのバージョンが表示されます。

ファームウェアとは？

本製品を制御するためのプログラムにあたるものです。

機能追加・仕様変更などを施した最新のファームウェアが弊社のホームページから公開されるとダウンロードしてWWW設定画面上でアップグレードすることができます。

http://www.planex.co.jp/support/download/driver_router.shtml

このとき、該当するファームウェアであるかなどをこのファームウェアバージョンを参照して頂くことにより確認できます。

管理者パスワード

本製品の管理者パスワードは工場出荷時は「password」に設定されています。本製品のご利用に際してはセキュリティ上、管理者パスワードの変更を推奨します。

管理者パスワードを変更するには、「変更する」にチェックを入れて以下を入力してください。

「新しいパスワード」

新しいパスワードを入力します。セキュリティのため、この欄に文字を入力しても“*”(アスタリスク)表示されます。

「新しいパスワードの確認」

確認のため新しいパスワードをもう一度入力します。設定が終了したら「設定」ボタンをクリックします。



注意

最大16文字の半角英数字を入力可能です。大文字・小文字の違いに注意して入力してください。パスワード設定は「設定」ボタンを押した直後から有効になります。パスワード忘れの場合には設定画面にアクセスできなくなりますので、忘れないようにしてください。

管理者端末の制限

この項目の「有効」にチェックを入れると、本製品を設定できる端末(コンピュータ)の制限できます。

以下で設定されたMACアドレスの端末(コンピュータ)のみが本製品の設定が行うことができますようになります。アクセス出来る端末(コンピュータ)のMACアドレスは2つまで登録できます。MACアドレスのチェックは「設定」ボタンを押した直後から有効になりますので、十分に注意して設定を行ってください。

「端末 MACアドレス」

対象となる端末(コンピュータ)のMAC アドレスを入力します。

MAC アドレスは16進数(0 9、a f)、12桁で入力してください。

(例：0090cc11aa22)

入力内容を確認し、間違いがなければ「設定」ボタンをクリックしてください。



注意

誤ったMACアドレスを登録するとWEB設定画面にログイン出来なくなります。この機能を有効にする場合は、確認を行ったうえで慎重におこなってください。

ステルスモード

ステルスモードを有効にした場合には、WAN側ポートに対してのICMP Echo要求(PING等)とIDENT(TCP113)に対して返答をしなくなります。これによりインターネット側から本製品のIPアドレスを探されても見つからなくなりセキュリティが向上します。有効にする場合にはチェックボックスにチェックを入れます。



注意

ステルスモードを有効にした場合にはWAN側から本製品の接続状態を確認したい場合などに、ICMP Echoパケットを受け付けないために切断されているように見えます。また、プロバイダによってはEメールの送信の際にIDENTプロトコルを利用するため、これに反応しなくなるとメールの送受信に30秒ほど時間がかかる場合があります。WAN側からの接続状態を確認したりする場合などの際はステルスモードは無効にしてください。

WAN側からのログイン

WANポート側から本製品の設定画面にアクセスする事を許可する場合には、チェックボックスにチェックを入れます。WAN側からの設定を許可した状態で、インターネットに接続するとインターネットから不正にアクセスされる危険があります。WAN側からの設定を許可する場合には事前にログインパスワードの変更・管理者端末の制限を行うなど対策を行ってから許可することを推奨します。

WAN側ログインポート番号

WEB設定画面へアクセスするときのポート番号を変更できます。ポート番号を変更することで、不正にアクセスされる危険性を低減できます。ポート番号を変更後、WEB設定画面にログインするには、以下の通りにURLを入力してください。

例：ログインポート番号を「8080」に変更

・WAN側IPアドレスが192.100.1.1の場合

「http://192.100.1.1:8080」でログイン出来るようになります。

入力内容を確認し、間違いがなければ「設定」ボタンをクリックしてください。

6 ローカルサーバ機能

ローカルサーバ機能とは、LAN側に接続したコンピュータ上で動作しているサーバ（アプリケーション）にインターネット（WAN）側からのアクセスを可能にする機能です。バーチャルコンピュータ機能がインターネットからのすべての通信を1台のコンピュータに転送するのにに対し、必要なポートだけに通信を転送することで安全なサービス公開が可能となります。ローカルサーバ機能ではあらかじめ定義されているアプリケーションか、TCP/UDPプロトコルのポート番号ごとに転送先のLAN側コンピュータのローカルIPアドレスを設定できます。ローカルサーバ機能を設定するには、画面左側のメインメニューの「アドバンスド設定」をクリックして表示されるアドバンスド設定メニューから「ローカルサーバ」をクリックします。

5 詳細設定

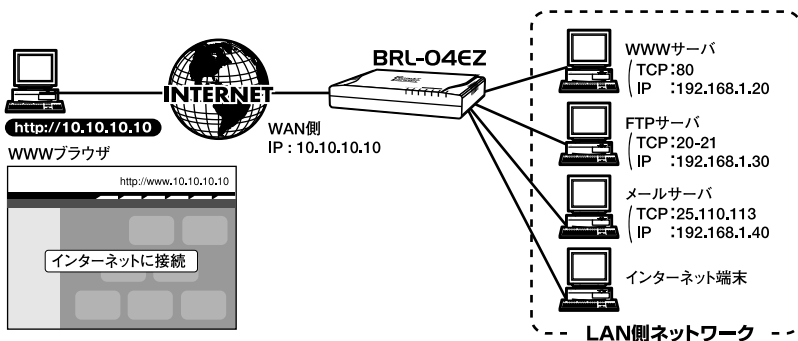


図5-1 ローカルサーバ

「サーバの指定」

本製品ではローカルサーバ機能を利用する場合の代表的なアプリケーションの設定をプリセットしています。

「アプリケーション名で指定」を選択した場合、アプリケーションとIPアドレスを指定するだけで、ローカルサーバ機能を利用する事が出来ます。ローカルサーバに転送するパケットをポート番号で指定する場合には「ポート番号で指定」で設定を行います。ポート番号で指定する場合には、プロトコルとポート番号を転送するIPアドレスに対して設定します。

「プロトコル」

ローカルサーバをポート番号で指定する場合には、サーバ(アプリケーション)で使用しているUDPポートまたはTCPポートを指定します。UDPポートを指定する場合にはUDPを、TCPポートを指定する場合にはTCPを選択します。

「ポート指定」・「ポート番号」

ローカルサーバを設定するポート番号を入力します。ポート番号は1個のポート番号を指定することも、範囲でポート番号を指定することも出来ます。ポート番号の入力範囲は、0から65535の間で行います。

- ・ 1個のポート番号を指定する場合
「ポート指定」より「1個」を選択して、「ポート番号」の「開始」に指定するポート番号を入力します。
- ・ 範囲で指定する場合
「ポート指定」より「範囲」を選択して、「ポート番号」の「開始」に指定するポートの範囲の最初のポート番号を、「終了」に指定するポート番号の範囲の最後のポート番号を入力します。

「ローカルIPアドレス」

インターネット側からのアクセスを転送(公開)するLAN側のコンピュータのIPアドレスを入力します。

IPアドレスは「.(ドット)」で区切られた4つの数字の内の最後の1つを入力します。例えば「192.168.1.200」を設定するときは「200」を入力します。入力内容を確認し、「ローカルサーバを追加」ボタンをクリックしてください。「ローカルサーバリスト」にエントリが追加されます。

「ローカルサーバリスト」

上記で行ったローカルサーバ設定が一覧表示されます。登録済みエントリの設定を変更するには、一度削除した上で、再度登録を行ってください。すべてのエントリを削除したい場合は「すべてのローカルサーバを削除」ボタンを押します。個別にエントリを削除したい場合には、リストボックスから削除したいエントリの番号を指定して、「次のローカルサーバを削除」ボタンを押します。

例：WEB サーバの公開

LAN側のコンピュータでWEBサーバを公開するときは、

「ローカルサーバ」「サーバの指定」から「アプリケーション名で指定」、「アプリケーション」より

「HTTP(TCP80)」を選択します。

「ローカルIPアドレス」欄に公開するコンピュータのIPアドレスを入力し、「ローカルサーバを追加」ボタンをクリックします。「ローカルサーバリスト」に、「1.TCP(80 to 80)192.168.1.20」が追加されたことを確認して終了です。

設定したWEBサーバにインターネットからアクセスするには、WEB ブラウザのアドレス(URL)入力欄に本製品のWAN側ポートのIP アドレスを入力します。

7 バーチャルコンピュータ機能

バーチャルコンピュータ機能とは、LAN 側のコンピュータにインターネット(WAN)側からアクセスさせることを可能にする機能で、DMZ(DeMilitarized Zone)とよばれることもあります。バーチャルコンピュータを設定すると、インターネットから本製品WAN側ポートのグローバルIPアドレスへ送られてくる不明なパケットはすべて設定したバーチャルコンピュータに転送されます。通常は、プライベートLAN上のいずれか1台のコンピュータをバーチャルコンピュータとして登録することが可能です。

バーチャルコンピュータを設定するには、画面左側のメインメニューの「アドバンスド設定」をクリックして表示されるアドバンスド設定メニューから「バーチャルコンピュータ」をクリックします。

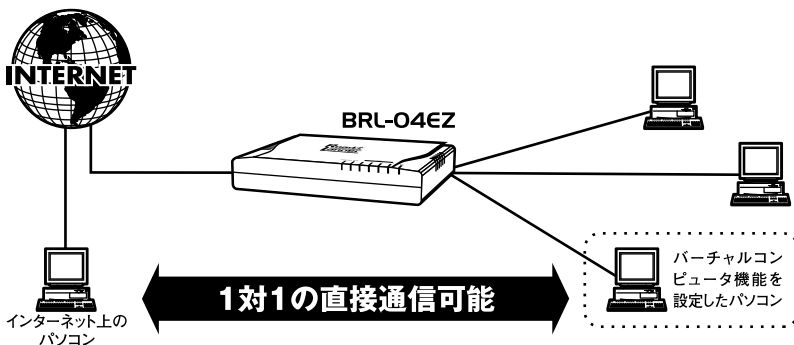
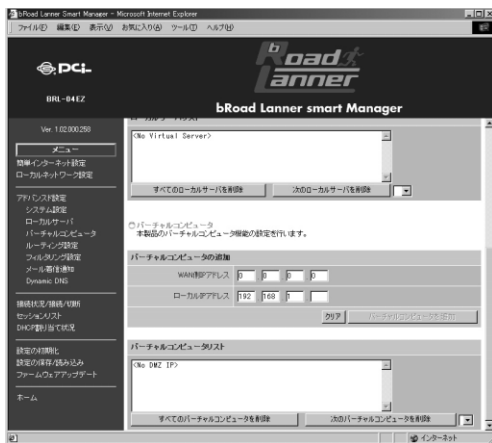


図5-2 バーチャルコンピュータ機能



注意

バーチャルコンピュータ機能を有効にすると、バーチャルコンピュータに設定したコンピュータに対してセキュリティが無効な状態になります。予め対象となるコンピュータ本体のセキュリティ設定を十分に行った上でご利用になるか、必要時以外はこの機能を無効にしておくことを推奨します。

バーチャルコンピュータの追加

「WAN側IPアドレス」

IP アドレスは「.」(ドット)で区切られた4つの数字の内の最後の1つを入力します。例えば「192.168.1.200」を設定するときは「200」を入力します。

「ローカルIPアドレス」

LAN側にあるバーチャルコンピュータ機能を利用したいコンピュータのIPアドレスを入力します。

IPアドレスは「.」(ドット)で区切られた4つの数字の内の最後の1つを入力します。例えば「192.168.1.200」を設定するときは「200」を入力します。



注意

バーチャルコンピュータ機能を利用するパソコンのIPアドレスは固定しておかなければなりません。

入力内容を確認し、正しければ「ローカルサーバの追加」ボタンを押します。「ローカルサーバリスト」にエントリが追加されます。

「バーチャルコンピュータリスト」

上記で行ったバーチャルコンピュータ設定が一覧表示されます。登録済みエントリの設定を変更するには、一度削除した上で、再度登録を行ってください。

すべてのエントリを削除したい場合は「すべてのバーチャルコンピュータを削除」ボタンを押します。個別にエントリを削除したい場合には、リストボックスから削除したいエントリの番号を指定して、「次のバーチャルコンピュータを削除」ボタンを押します。

8 ルーティング設定

本製品では、ルーティングテーブルに静的ルーティング情報を2つまで追加することが可能です。

ルーティングを設定するには、画面左側のメインメニューの「アドバンスド設定」をクリックして表示されるアドバンスド設定メニューから「ルーティング設定」をクリックします。



注意

新規にルーティング情報を定義するには、TCP/IPについてのより高度な知識が要求されます。間違ったルーティング情報を定義すると、IPネットワーク全体の通信が止まってしまう恐れもあります。ルーティング情報の定義を行う前に、ネットワーク管理者と相談し、追加するルーティング情報に問題が無いがよく確認してください。

スタティックルート

「送信先アドレス」

送信先ホストのIPアドレスまたは送信先のネットワークアドレスを入力してください。

「サブネットマスク」

送信先ネットワークのネットマスクを入力してください。

「ゲートウェイアドレス」

送信先アドレスへのゲートウェイのIPアドレスを入力してください。

設定を変更した場合は「設定」ボタンをクリックしてください。変更した設定内容が保存され本製品が再起動を開始します。

9 フィルタリング設定

本製品では、「MACアドレス」、「IPアドレス」、「ポート番号」の3種類のフィルタリング設定が可能です。フィルタは3種類あわせて24件まで設定可能です。

フィルタリング機能では、LAN側プライベートネットワーク上のユーザのWEBの参照やE-mailなどのインターネットサービスの使用制限を行うことが可能です。この機能を利用することで、ユーザの意図しない通信をインターネットに出さないようにしたり、また、特定のユーザからのインターネットへのアクセスを禁止したり、インターネット上の特定のサイトへのアクセスを禁止することも可能です。デフォルト設定では、フィルタリング機能は何も設定されていません。

フィルタリングを設定するには、画面左側のメインメニューの「アドバンスド設定」をクリックして表示されるアドバンスド設定メニューから「フィルタリング設定」をクリックします。



MACアドレスフィルタの追加

MACアドレスフィルタでは、プライベートネットワーク上の特定のMACアドレスからのパケットに対してフィルタを設定することが可能です。

「動作」

ここで設定したMACアドレスの機器からのパケットを廃棄する場合は「廃棄する」を、ここで指定したMACアドレスの機器からのパケットのみを転送する場合は「転送する」をチェックします。

フィルタ動作モードはすべて同じにしてください。(破棄/転送)

「MACアドレス」

フィルタを適用する機器(コンピュータ)のMACアドレスを入力します。MACアドレスは16進数(0-9、a-f) 12桁で入力してください。(例: 0090cc11aa22)

入力内容を確認し、間違いがなければ「MACアドレスフィルタを追加」ボタンを押します。

「フィルタリスト」にエントリが追加されます。

IPアドレスフィルタの追加

IPアドレスフィルタでは、プライベートネットワーク上の特定のIPアドレスからのパケットに対してや、インターネット上の特定のIPアドレスへのパケットに対してフィルタを設定することが可能です。

「動作」

ここで設定した内容のパケットを廃棄する場合は「廃棄する」を、ここで指定した内容のパケットからのみを送る場合は「転送する」をチェックします。

フィルタ動作モードはすべて同じにしてください。(破棄/転送)

「IPアドレス指定」

- ・1個のIPアドレスを指定

フィルタを適用する機器のIPアドレスを1個ずつ指定する場合にチェックします。

- ・IPアドレスを範囲指定

フィルタを適用する機器のIPアドレスを1個ずつではなく、連続した範囲で指定する場合にチェックします。

「IPアドレス」

・開始IPアドレス

フィルタを適用するIPアドレスの最初のIPアドレスを入力します。「1個のIPアドレスを指定」にチェックした場合は、ここにIPアドレスを入力します。

・終了IPアドレス

フィルタを適用するIPアドレスの最後のIPアドレスを入力してください。「1個のIPアドレスを指定」にチェックした場合は入力する必要はありません。

「ローカル / リモート」

・ローカルIP

ここで指定したプライベートIPアドレスを送信元を持つパケットに対してフィルタを適用する場合にチェックします。LAN側ポートのプライベートネットワーク上の特定のコンピュータからのインターネットへのアクセスを禁止したい場合に使用します。

・リモートIP

ここで指定したリモートIPアドレスを送信先に持つパケットに対してフィルタを適用する場合にチェックします。インターネット上の特定のサイトへのアクセスを禁止したい場合に使用します。

入力した内容でIPアドレスフィルタを追加するには「IPアドレスフィルタを追加」ボタンをクリックします。「フィルタリスト」にIPアドレスフィルタが追加されます。

ポートフィルタの追加

ポートフィルタでは、WEBやFTP等の特定のサービスのみを許可したり、禁止したりすることが可能です。

「動作」

ここで設定した内容のパケットを廃棄する場合は「廃棄する」を、ここで指定した内容のパケットからのみを転送する場合は「転送する」をチェックします。フィルタ動作モードはすべて同じにしてください。(破棄/転送)

「ポート指定」

・1個のポート番号を指定

フィルタを適用するポート番号を1個ずつ指定する場合にチェックします。

・ポート番号を範囲指定

フィルタを適用するポート番号を1個ずつではなく、連続した範囲で指定する場合にチェックします。

「ポート番号」

- ・ 開始ポート番号

フィルタを適用するポート番号を入力します。「1個のポート番号を指定」にチェックした場合は、ここにIPアドレスを入力します。

- ・ 終了ポート番号

フィルタを適用するポート番号を入力してください。「1個のポート番号を指定」にチェックした場合は入力する必要はありません。

「プロトコル」

フィルタを適用するプロトコルを「TCP」または「UDP」から選択します。

入力した内容でポートフィルタを追加するには「ポートフィルタの追加」ボタンをクリックします。「フィルタリスト」にポートフィルタが追加されます。

「フィルタリスト」

上記で行った各種フィルタ設定が一覧表示されます。

すべてのフィルタを削除したい場合は「すべてのフィルタを削除」ボタンを押します。個別にフィルタを削除したい場合には、リストボックスから削除したいフィルタの番号を指定して、「次のフィルタを削除」ボタンを押します。

10 メール着信通知機能

本製品は指定した時間毎にメールサーバーにアクセスし、メールの着信状況をLEDで通知する事が出来ます。

メール着信通知機能を設定するには、画面左側のメインメニューの「アドバンスド設定」をクリックして表示されるアドバンスド設定メニューから「メール着信通知」をクリックします。



注意

本製品のメール着信機能はWEBメールには対応していません。
メール着信通知機能を利用する場合は、「メールアカウント」欄の「有効にする」にチェックを入れて以下の項目を設定します。

「メールアカウント」

メール着信通知機能を利用して着信を確認するメールアドレスを指定します。
ご利用のメールアドレスの“@”より前の部分を半角英数で入力します。
(例：BRL-04EZ@planex.co.jp ならば、“BRL-04EZ”)

「メールパスワード」

メールアカウントのパスワードを入力します。セキュリティのため、この欄に文字を入力しても"*"(アスタリスク)表示されます。半角英数で間違えないように入力してください。

「受信メールサーバ(POP3)」

メールの受信サーバーを指定します。サーバー名を半角英数で入力するか、サーバのIPアドレスを入力します。

「チェック間隔」

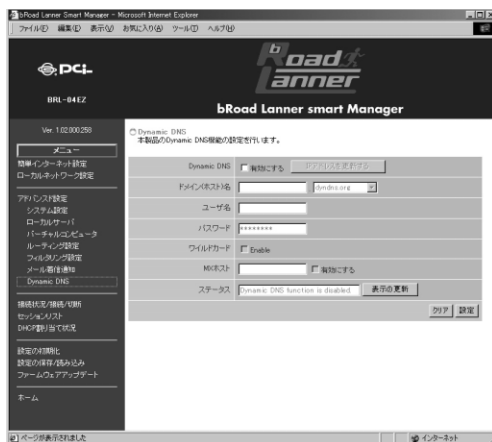
メールサーバへメールの着信を確認しに行く間隔を指定します。

入力内容を確認し、間違いがなければ「設定」ボタンを押してください。変更した設定内容が保存され本製品が再起動を開始します。

11 Dynamic DNS設定

本製品はwww.dyndns.org により提供されているDynamic DNSサービスに対応しています。dyndns.orgに登録してあるユーザ名、パスワード、ドメイン名の情報を本製品に設定しておくことにより、自動的に登録内容の更新を行います。この機能を利用することでローカルサーバ機能などでサーバを公開するときに、ユーザがIPアドレスの代わりに、ドメイン名を指定してアクセスすることができます。接続するたびにIPアドレスが変更されてしまうサービスのときでもIPアドレスを更新することにより、常に同じドメイン名でアクセスさせることができます。サービスの詳細は、<http://www.dyndns.org/> をご覧ください。

DynamicDNS の設定をするには、設定画面左側のメインメニューの「アドバンスド設定」をクリックして表示されるアドバンスド設定メニューから「Dynamic DNS」をクリックします。



注意

この機能を利用するには、事前に<http://www.dyndns.org/> にアクセスしてドメイン名の登録が必要となります。

「IPアドレスの更新」

DDNSサーバに、IPアドレスの変更を通知します。



注意

不必要に更新をIPアドレスが変わっていないのに定期的に `ddup` コマンドを実行してしまうと、*abuse*(乱用)と見なされ、DynDNSからそのドメインの利用を停止されます。こうなった場合、DynDNSにお願いして再度ドメインの利用を再開してもらう必要があります。

「ドメイン(ホスト)名」

dyndns.orgに登録したドメイン名を入力します。

「ユーザ名」

dyndns.orgに登録したユーザ名を入力します。

「パスワード」

dyndns.orgに登録したパスワードを入力します。

「ワイルドカード」

「Enable」にチェックを入れると取得しているホスト名のサブドメインにワイルドカードの使用が可能となり、
www.planex.dyndns.orgやmember.planex.dyndns.orgなど、何を指定してもplanex.dyndns.orgに自動的に解決されるようになります。

「MXホスト」

取得したドメイン(xxx.dyndns.org 等)宛のメールを転送させたい場合、転送先メールサーバのホスト名を入力します。通常、必要がない場合は空欄にしてください。

「BackupMX?」

MXホストが入力されている場合、チェックを入れると「MXホスト」に登録したホストをバックアップ用メールサーバとして設定します。通常、必要がない場合は「無効」にしてください。

「ステータス」

DDNSサーバからの応答メッセージを表示します。

入力内容を確認し、間違いがなければ「設定」ボタンを押してください。変更した設定内容が保存され本製品が再起動を開始します。

12 接続状況/接続/切断

ここでは本製品のWAN側ポートの接続状態を確認できます。また、WAN側ポートのDHCPによるIPアドレスの再取得やPPPoEセッションの接続/切断を手動で行うことが出来ます。

WWWブラウザの画面左側から、「接続状況/接続/切断」の文字をクリックします。インターネット接続ステータス画面が表示されます。



「表示の更新」

「表示の更新」ボタンをクリックして最新の接続情報を表示します。

「PPPoE接続」

- ・「Enable」：PPPoE接続サービスで接続されていることを表します。
- ・「Disable」：PPPoEを利用しない通常接続サービスで接続されていることを表します。

「PPPoEアカウント No.」

現在使用しているPPPoE接続プロファイルの番号が表示されます。通常接続を使用しているときは、「(Not PPPoE)」と表示されます。

「PPPoE接続時間」

PPPoE接続による接続時間を表示します。切断すると時間は初期化されます。通常接続を使用しているときは、「(Not PPPoE)」と表示されます。

「IP アドレス」・「サブネットマスク」・「デフォルトゲートウェイ」

現在のWAN側ポートのIPアドレス・サブネットマスク・デフォルトゲートウェイが表示されます。

「プライマリDNS」・「セカンダリDNS」

現在、利用しているDNSサーバアドレスです。

DHCPサーバから自動取得した、または[簡単インターネット設定] で手動設定したDNSアドレスを示します。

LAN側のコンピュータにDHCPサーバ機能で割り当てるDNSサーバアドレスになります。

「ドメイン名」

現在使用しているドメイン名です。

DHCPサーバから自動取得した、または[簡単インターネット設定] で手動設定したドメイン名を示します。

「MACアドレス」

現在のWAN側ポートのMACアドレスです。WAN側ポートのMACアドレスを指定していない場合は、本製品のMACアドレスが表示されます。

「リンク状況」

WAN側ポートの接続状態が表示されます。メッセージの詳細については、付録D「WANポート接続状況メッセージ一覧」をご覧ください。

「開放/切断」・「更新/接続」

PPPoEセッションの接続と切断及び、DHCPによるIPアドレスの解放と再取得が出来ます。

PPPoE接続の場合

「接続」ボタンでPPPoEセッションを開始し、「切断」ボタンでPPPoEセッションを終了します。



注意

「簡単インターネット設定」の「セッションキープアライブ」を有効にしていると、「切断」によってセッションを終了しますが、すぐに再接続処理がされてしまいます。確実に切断したい場合は、機能を無効にしてください。

通常接続の場合

「更新」ボタンでプロバイダのDHCPサーバからIPアドレスを自動取得し、「開放」ボタンでプロバイダのDHCPサーバにIPアドレスを返却します。「DHCPリース開放」「DHCPリース更新」の順でボタンを押してください。

13 セッションリスト

セッションリストでは現在のLAN側からWAN側へのアクセスについてのセッション状態が表示されます。

WWWブラウザの画面左側から、「セッションリスト」をクリックします。セッションリスト画面が表示されます。



「セッションリスト」

[TCP]・[UDP]を選択して、表示させるポートタイプを変更します。

「表示の更新」

「表示の更新」ボタンをクリックして最新の接続情報を表示します。

14 DHCP割り当て状況

DHCP割り当て状況では本製品のDHCPサーバ機能による、LAN側のコンピュータへのIPアドレスの割り当て状況を表示します。

WWWブラウザの画面左側から、「DHCP割り当て状況」をクリックします。
DHCP割り当て状況が表示されます。

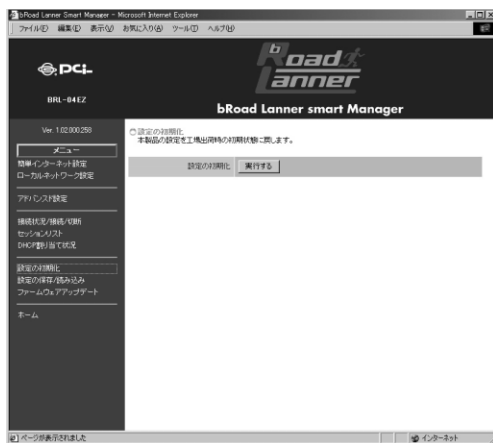
「表示の更新」

「表示の更新」ボタンをクリックして最新の接続情報を表示します。



15 設定の初期化

本製品の設定を工場出荷時の状態に戻します。



注意

ルータのLAN側IP・WEB設定へのログインパスワードなど、すべての設定が工場出荷状態に戻ります。必要に応じて、設定情報を保存してから初期化を行うことを推奨します。

1. WWWブラウザの画面左側から、「設定の初期化」の文字をクリックします。設定の初期化画面が表示されます。
2. 「実行する」ボタンをクリックすると、初期化処理・再起動が行われます。

16 設定の保存/読み込み

本製品の設定情報ファイルの保存、ファイルからの読み込みを行います。



「設定情報の保存」

「保存」ボタンをクリックすると、「config.sav」というファイルが作成されます。

「設定情報の読み込み」

「参照」ボタンをクリックして、該当する設定情報ファイルを指定します。指定したファイルが設定情報ファイルであることを確認して「読み込み」ボタンをクリックしてください。



注意

「設定情報の読み込み」を行う際、指定したファイルが設定情報ファイル以外のものだと、ルータが破損する恐れがあります。読み込み作業は十分、確認した上で行うようにしてください。

17 ファームウェアアップデート

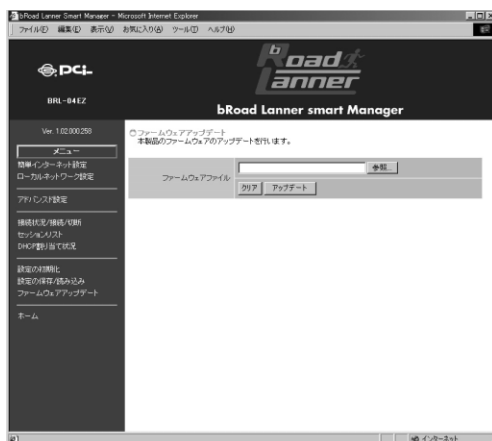
本製品はWEB ブラウザからファームウェアのアップデートができます。

機能追加・仕様変更などを施した最新のファームウェアが弊社のホームページから公開されるとダウンロードしてWWW設定画面上でアップグレードすることができます。WEBページからアップデートを行うので書き換えユーティリティなどのインストールも不要で、Windowsだけでなく、MacやLinuxなど幅広いOSでご利用いただけます。

ファームウェアをアップデートするときは、設定画面左側のメインメニューの「ファームウェアアップデート」をクリックします。

5

詳細設定



ファームウェアのアップデート手順

1. まず、はじめにダウンロードしたファイルに解説ファイルが添付してあるので、ご一読ください。
2. 「参照」ボタンを押すと、「ファイルの選択」ウィンドウが展開します。
ダウンロードしたファームウェアファイル(・・・.bin)を指定して、「開く」をクリックします。
3. 解説ファイルで案内してあるファイルであることを確認して、「アップデート」ボタンをクリックします。
ルータ本体のLEDが点滅しだして、アップデート処理が行われます。(20秒ほどかかります。)

LEDの点滅が止むとアップデート終了です。



注意

ファームアップデート作業中は、絶対電源の抜き差しを行わないでください。ルータが破損する可能性があります。また、誤って、ファームウェアファイルとは異なるものを読み込んでも、同様に破損する恐れがあるので、作業を慎重に行いようしてください

トラブルシューティング

POWER LEDが点灯しない

本製品付属のACアダプタをお使いになっていますか？

ACアダプタが本製品背面の電源コネクタにしっかりと接続されていますか？

WAN LEDが点灯しない

ツイストペアケーブルの両端はそれぞれ、本製品背面のWAN側ポートおよびADSL/ケーブルモデムのRJ 45ポートにしっかりと接続されていますか？

ADSL/ケーブルモデムの電源は入っていますか？モデムのPOWERランプを確認してください。

LANケーブルの種類は間違っていないですか？

ADSL/ケーブルモデムにMDI/MDI Xの切り替えスイッチがある場合は切り替えてみてください。

LAN Link/Act LEDが点灯しない

ツイストペアケーブルの両端はそれぞれ、本製品背面のLAN側ポートおよびハブまたはコンピュータのRJ 45ポートにしっかりと接続されていますか？

コンピュータの電源は入っていますか？

WEB 設定画面が表示されない

コンピュータのLANアダプタは正常に動作していますか？

コンピュータまたはLAN アダプタのマニュアルを参照してネットワーク設定を確かめてください。

コンピュータのTCP/IPの設定に間違いがあることも考えられます。IPを自動取得(DHCPサーバでの設定)する設定にします。

お使いになっているWEB ブラウザで、プロキシが設定されていると設定画面が表示されません。

プロキシを使わない設定にします。Internet Explorerでは「表示(ツール)」、「インターネットオプション」、「接続」、Netscapeでは「編集」、「設定」、「詳細」にプロキシの設定項目があります。

コンピュータがIPアドレスを取得できていないことも考えられます。

Windows ではDOSプロンプトから、ipconfigコマンドを実行するとIPアドレスが表示されています。Macintoshではアップルメニューから「コントロールパネル」、「TCP/IP」を開いて、IP アドレスの欄にIPが割り振られてるか確かめてください。コンピュータがIPアドレスを取得できてないときは、コンピュータを再起動します。(工場出荷時設定時は192.168.1.xxx がIP アドレスに割り当てられます。)

インターネットにアクセスできない

WAN側のIP設定に間違いがあることも考えられます。プロバイダから受け取っているIP設定の資料をよく確かめ、4章「インターネット接続設定」をやり直してみてください。

PPPoE接続の場合はユーザー名の設定で@（アットマーク）以降が正しく設定されているか、入力したパスワードに間違いがないか確認してください。

DNSサーバの設定に間違いがあることも考えられます。

DHCPサーバ機能を利用されているときはプロバイダから受け取っているIP設定の資料をよく確かめ、4章「インターネット接続設定」をやり直します。

DHCPサーバ機能を利用していないときはプロバイダから受け取っているIP設定の資料をよく確かめ、コンピュータのDNSサーバ設定を確かめてください。

IPフィルタが設定されていませんか？

IPフィルタの設定を確かめてください。

IPアドレス、またはパスワードを忘れてしまった

本製品の管理者パスワードを忘れてしまい、設定画面にログインできなくなってしまったときは、1章「6.設定の初期化」を参照し、IPアドレス、またはパスワードを工場出荷時の状態に戻します。

MACアドレスがわからない

本製品のMACアドレスは本体底面のシールに印刷されています。

Node ID：の後の12桁の文字列が本製品のMACアドレスです。MACアドレスはLAN側ポートとWAN側ポートで異なりますので注意してください。プロバイダへMACアドレスの申請が必要なときはWAN側ポートのMACアドレスを申請してください。または、本製品のMACアドレス変更機能をお使いください。

工場出荷時設定

本製品の工場出荷時の工場出荷時設定は以下のようになっています。デフォルト設定の読み込みを行った場合も、以下の設定が読み込まれます。

項目	説明	
ログインパスワード	password	
LAN側	IPアドレス	192.168.1.1
	サブネットマスク	255.255.255.0
	DHCPサーバ設定	有効
	割り当て範囲	192.168.1.21~149
	WINSアドレス	0.0.0.0
WAN側	接続方法	通常接続 (DHCP接続)
	DHCPクライアント	有効
	IPアドレス	0.0.0.0
	サブネットマスク	0.0.0.0
	デフォルトゲートウェイ	0.0.0.0
	DNS	自動取得
	ホスト名	BRL-04EZ
ドメイン名		
管理者	管理者端末制限	無効
	ステルスモード	無効
	WAN側からのログイン	無効
	ログインポート	80番
IP Unnumbered設定	無効	
ローカルサーバ設定	なし	
バーチャルコンピュータ設定	なし	
ルーティング	未設定	
フィルタリング設定	なし	
メール着信通知機能	無効	
DynamicDNS機能	無効	

仕様

C

仕様

項目	説明
準拠する規格	全ポート : IEEE802.3 10BASE-T、IEEE802.3u 100BASE-TX IEEE802.3x Flow Control
伝送速度	全ポート : 10/100Mbps
ポート	LAN側 : RJ-45×4 ポートスイッチングハブ (Auto MDI/MDI-X) WAN側 : RJ-45×1 ポート (Auto MDI/MDI-X)
ネットワークケーブル	10BASE-T : カテゴリ3 以上ツイストペアケーブル (100m) 100BASE-TX: カテゴリ5 以上ツイストペアケーブル (100m)
ルーティング対象 プロトコル	IP
LED	PWR/ERR、WAN、LAN、Mail
入力電源	DC5V、1500mA
外形寸法 (本体のみ)	W×H×D /158 x 103 x 27 mm
重量 (本体のみ)	220g
環境	動作温度0~40℃、動作湿度35~85%
EMI	VCCI classB、FCC classB、CE

WANポート接続状況・ メッセージ一覧

項目	説明
PPPoE offline. Ready to connect.	PPPoE接続が確立していない状態です。 インターネット接続が接続可能です。
Connecting to server	ルータがPPPoE接続処理を行っている状態です。
Server found	PPPoEサーバを発見しました。
Start PPP negotiation	PPPoEセッションの確立します。
Authentication (PAP)	PPPoEサーバとのPAP認証処理を行っています。
Authentication (CHAP)	PPPoEサーバとのCHAP認証処理を行っています。
Obtaining WAN IP address	認証が成功しPPPoEサーバよりIPアドレスを獲得します。
Connect successfully	PPPoE接続処理が成功終了してインターネット利用が可能な状態です。
Can not find server	PPPoEサーバが発見できませんでした。
Fail on LCP stage	設定が間違っているか、本製品では接続できない特殊なサービスの可能性があります。
Authentication (PAP) failure	PAP認証に失敗しています。アカウント設定誤りの可能性があります。
Authentication (CHAP) failure	CHAP認証に失敗しています。アカウント設定誤りの可能性があります。
Fail to Obtain WAN IP address	認証処理は成功していますが、IPアドレスの取得に失敗しています。
Server dropped the connection	何らかの原因で、PPPoEサーバ側から通信を切断されました。
Disconnect on idle	長時間の無通信状態により、PPPoEサーバ側との通信切断しました。
Connection establish timeout	PPPoEサーバに対して、再接続を試みましたが失敗しています。 アカウント設定の再確認をしてみてください。
DHCP already claimed	DHCPサーバからIPアドレスを取得してインターネット利用が可能な状態です。
DHCP under claiming	DHCPサーバからIPアドレスを取得処理を行っています。

ユーザー登録について

この度は弊社製品をお買い上げいただき誠にありがとうございます。弊社では製品をお買い上げいただいたお客様にユーザー登録をお願いしております。ユーザー登録を行っていただいたお客様には新製品情報、バージョンアップ情報、キャンペーン情報等さまざまな情報を提供させていただきます。また、製品の故障等でユーザーサポートをお受けになるにはお客様のユーザー登録が必要となります。ぜひユーザー登録を行ってくださいますようお願いいたします。

ユーザー登録は下記弊社インターネットホームページ上で受け付けております。ユーザー登録を行って戴いたお客様の中から毎月抽選でプレゼントを差し上げております。

<http://www.planex.co.jp/user/>

弊社へのお問い合わせ

弊社製品の追加購入

弊社製品のご購入は、販売店様またはPCIダイレクトまで。
ケーブル1本からレイヤ3スイッチまで、お客様が探しているものが見つかります。
PCIダイレクト
<http://direct.planex.co.jp/>

製品に関するお問い合わせ

製品購入前のご相談や、ご質問は弊社専任アドバイザーにお任せください。
ネットワーク導入やシステム構築・拡張など、お客様のお手伝いをいたします。
ご質問/お見積もりフォーム
<http://www.planex.co.jp/lan.shtml>

技術的なお問い合わせ・修理に関するお問い合わせ

製品購入後のご質問は、弊社サポートセンターまでお問い合わせください。
豊富な知識をもったサポート技術者が、お客様の問題を解決いたします。

お問い合わせフォーム

<http://www.planex.co.jp/support/techform/>

受付：24時間

電話

フリーダイヤル：0120-415977

受付：月～金曜日、10～12時、13～17時

* 祝祭日および弊社規定の休業日を除く

FAX

ファクス番号：03-5614-1018

受付：24時間

お問い合わせ前お願い

サポートを円滑に行うため、お問い合わせ前に以下のものをご用意ください。
お客様のご協力お願いいたします。

- ・弊社製品の製品型番とシリアルナンバー
- ・ご利用のコンピュータの型番とオペレーティングシステム名(Windows XP/Meなど)
- ・ご利用のネットワークの環境(回線の種類やインターネットサービスプロバイダ名など)
- ・ご質問内容(現在の状態、症状など。エラーメッセージが表示されている場合はその詳細を書きとめてください)

その他

その他のお問い合わせ先は、弊社ホームページからお確かめください。
プラネックスコミュニケーションズ
<http://www.planex.co.jp/>

質問表

技術的なご質問は、この2ページをコピーして必要事項をご記入の上、下記FAX番号へお送りください。

ブラネックスコミュニケーションズ テクニカルサポート担当 行

FAX : 03-5614-1018

送信日 : _____

会社名			
部署名			
名前			
電 話		F A X	
E-MAIL			

製品名 Product name	4ポート ブロードバンド ルータ		
型番 Product No.	BRL-04EZ		
製造番号 Serial No.			

ご使用のコンピュータについて

メーカー	
型番	

ソフトウェア

ネットワーク OS	バージョン
OS	バージョン

保証規定

ブラネックスコミュニケーションズ(株)は、本製品についてご購入日より本保証書に記載の保証期間を設けております。

本製品付属の取扱説明書などに従った正常な使用状態の下で、万一保証期間内に故障・不具合が発生した場合、本保証規定に基づき無償修理・交換対応を行います。

ただし、次のような場合には保証期間内であっても有償修理となります。

1. 本保証書がない場合。
2. 本保証書に、ご購入日・お名前・ご購入代理店印の記入がない場合、または字句が改ざんされている場合。
3. 取扱上の誤り、または不当な改造や修理を原因とする故障及び損傷。
4. ご購入後の輸送・移動・落下による故障及び損傷。
5. 火災、地震、落雷、風水害、ガス害、塩害、異常電圧およびその他の天変地異など、外部に原因がある故障および損傷。
6. 他の機器との接続に起因する故障・損傷。

初期不良交換

保証期間発生日より1ヶ月以内の故障に関しては、初期不良交換サービスの対象となります。

お客様より初期不良である旨申告していただき、弊社がその申告現象を確認した場合に限り、初期不良品として新品と交換いたします。

ただし、検査の結果、動作環境や相性を起因とする不具合であった場合には、初期不良交換サービス対象とはなりません。また、当サービスをご利用頂くには、お買い上げ商品の全ての付属品が揃っていることが条件になります。

初期不良・修理依頼の手順(センドバック方式)

弊社では、センドバック(先に修理依頼品をお送りいただき、弊社より修理完了品をご返却する)方式による修理対応を行っております。

1. 本製品に故障・不具合が発生した場合、弊社サポートセンターまでご連絡ください。お送り先をご案内させていただきます。

ブラネックスコミュニケーションズ(株) サポートセンター

フリーダイヤル・0120-415977 FAX・03-5614-1018

Web・<http://www.planex.co.jp/support/repair/>

2. ご案内に従って、修理依頼品を弊社リペアセンターまでお送りください。
(誠に勝手ながら、リペアセンターへお送りいただく際の送料はお客様のご負担をお願いいたします。)
3. 当該初期不良・修理品の到着後、初期不良の場合は交換品、修理の場合は修理完了品をお送りいたします。

免責事項

- ・お客様及び第三者の故意または過失と認められる本製品の故障・不具合の発生につきましては、弊社では一切責任を負いません。
- ・本製品の使用及び不具合の発生によって、二次的に発生した損害(事業の中断及び事業利益の損失、記憶装置の内容の変化、消失等)につきましては、弊社では一切責任を負いません。
- ・本製品に装着することにより他の機器に生じた故障・損傷について、弊社では本製品以外についての修理費等は一切保証致しません。

保証書

弊社の保証規定を必ずご覧下さい

保証期間 Warranty	西暦 年 月 日 より 1年間
製品名 Product name	4ポート ブロードバンドルータ
型番 Product No.	BRL-04EZ
製造番号 Serial No.	

フリガナ	
会社名	
部署名	
フリガナ	
お名前	
フリガナ	
ご住所	<input type="text"/> <input type="text"/> <input type="text"/> - <input type="text"/> <input type="text"/> <input type="text"/> <input type="text"/> 都 道 府 県
TEL	
FAX	
メールアドレス	

ご購入代理店名 所在地	
----------------	--

本保証書は日本国内においてのみ有効です。 This warranty is valid only in Japan.

プラネックスコミュニケーションズ株式会社

